伊地知文庫
文庫20
233
1

林氏醫院

伊地知氏書冊

林氏醫院

林氏醫院

○以

▲文　イロヒカリ　色光乃ものなれはし小ものなれはし小ものなれはし小ものなれはし秋乃夜乃月

▲文　一字　八句なし秋乃夜乃月

一し秋と花べ〳〵紅葉乃ものごし

しるの文一乃月小牧ゝ紅葉ゝ井ふく秋

しる級し西郷云山乃ちるさく秋乃ものも

し　夫か二山乃ものもの秋乃ものこるの秋乃ものも

ものも秋乃ものの歌小二と云へ小ものこそ

ものも小紅葉　帰　赤　まる　朱塩　ものの二句塩

▲文　二　紅葉二句　神乃ものも月乃ものも

塩し　▲ものこ　色　ものこ二句し

▲文　二　うつろふ二句し花乃ものもうつろふ

菊乃ものもうつろふ新し月乃ものこ稲ふかし　ものも稲

▲文　二　帰　二句し帰　ものこ　ものこ

中霜さく赤き花とものこすも花も紅

葉し紅色葉有時乃秋に鶴の毛ものこ

を紅小葉に書乃ものに書乃ものこ

同乃ものこ乃毛ものに作乃花同乃ものこ乃花

ものこ稲ものこ乃ものこ乃雁　惟　博雅　雁ものこ

ものこ乃ものこ乃ものこ乃ものこ乃ものこ

紅花世ものこ乃ものこ藤花乃ものこ乃花

異作乃花ものこ乃ものこ乃ものこ乃ものこ

織乃文百機織織織織織織織織今産乃出さ

らん織織織乃産織織も引織織織織織

ものこ乃ものこ乃ものこ乃ものこ乃ものこ

詠め世に行乃ものこ乃ものこ乃ものこ

▲文二　赤二匁し　白し　白し　白し

▲文八　青い紙ハト

▲文ハと　西瓜　西瓜

▲文ハと　人　人

▲ろくろ　ろくろ小織　ろくろ小織

▲ろくろ　ろくろ

▲ろくろ　ろくろ帯

▲ろくろ

▲磐舟　磐舟

▲文紅葉ニ　黄付ろ　黄付ろ

▲文　萩　桔　桔

▲文　柳　楸　楸

▲文　花　花

▲夜衣乃文の　花木　花木

▲文の　花木　花木

▲文の　花木　花木

ふとゝ天乃多祇ゝ

○能乃ゆゑ乃岩水流ゝ

▲岩　百鍛小二義も引合く二乃国し

之石一何ゝ也ゝ打ゝ

と言し西国ゝも之国し　別も国おし

▲岩屋　窟し山ゝ二ハ居所二ハ

度二面言し岩二乃国し　天ゝ二ゝ山ゝ

ハ之岩乃国小ハ也ゝ

乃屋小ゝ也ゝ岩屋ゝ

二国ゝ小打と言ゝ石小乃

○番多ゝ岩乃磐小ハ也ゝ

○堅わゝ之見義乃多小ハれ

○奥乃海ゝ也ゝ窟ゝ烟ゝ

▲岩根乃家　居所二ハ

▲岩垣　居所二ハ打紙岩二乃国し

ゝり落し濁ゝ云ゝ

垣乃ゆく岩乃ゝ

▲岩石二　表ハ面と言へ

岩石二　別面言し別二ハ石ハ打と云

▲岩根二　木乃根垣ゝ

根ハ只し

▲岩根二山ハ

▲岩根二岸ゝ

▲岩橋　山ハ小ハ

岩橋ハ多色二ハ

▲岩橋も橋ハ乃国し

○義塚乃岩ゝ

歌多小一橋と言ゝ

ゝれ小歌乃歌ゝ

○岩橋ハ歌乃歌ゝ

▲石清水　八幡小ハ

ゝ也言ゝ白鳥小

屋ハ小せと言ゝ

岩二乃国し

▲岩くゝ　石乃ゆし

掘ゝ云ゝ祇代乃

ゝ乃河小

ゝ出ゝ

一

ゝ小石

乃角と云ふ。ふかき曲をとる

▲いのこ芋　しの芋　芋　山いもとも　いたよりあり

▲岩頓測　女乃橋姫乃時は芋し　石乃まくり　ゑのこ草

▲岩ふれ　あら乃石に成れて居し

▲岩ぬけ　あら乃石ふせられてよこぐるをも

○岩ぬけ　岩乃ものの事　岩乃ものの事　わくらの柳し　菱

▲岩くくり　岩乃くくり　岩乃くくり

○岩橋や　くもれ松　岩乃くくり　岩乃くくり　岩乃くくり

▲岩木　人偏乃上ふ云ふ　人偏乃上ふ云ふ　人偏乃上ふ云ふ　人偏乃上ふ云ふ

岩二の目しめふ動せぬ岩木あり　しめつく

つくし

▲岩代乃結び松　紀州岩代ゆくさきの

ゆまよひかんとの句　松乃ものと結びちがひ

とかくとくんざしと逆ざるゆし　奇林三を

岩代乃涙松ゆくとも結び句　くさるがみ　ゆりん

▲いこと　とぶき　杉と結べ

み猿　猿ゆ　猿ゆ　猿ゆ

▲糸竹　竹の字又句糸竹ニ竹あり

細し　笛竹の竹ハ竹ハ七句し　糸竹ハ竹

琴の糸とつゞきたくもこれなり　糸竹

乃糸ハ絃し　琴ハ弾れ　居名し　笛ハ

管し　吹れ　居名あり

▲糸　糸　乃糸柳の糸　乃糸　乃糸ハ　糸竹乃ハ　乃糸ハ一さゝぐ

乃糸　乃糸ハ　糸ハ乃糸　乃糸ハ　糸ハ乃糸

乃糸ハ　乃糸ハ　糸ハ乃糸　乃糸ハ　糸ハ乃糸

乃糸ハ　乃糸ハ　糸ハ乃糸　乃糸ハ　糸ハ乃糸

▲糸　糸ハ　糸ハ　糸ハ　糸ハ　糸ハ　糸ハ　糸ハ　糸ハ　糸ハ　糸ハ　糸ハ

和布乃去ル月ハ　ゆくすえ　ゆくすえ　ゆくすえ
▲ゆくすえ　ゆくすえ　ゆくすえ　ゆくすえ
▲一乃まき　東と張し　ゆくすえ　ゆくすえ
　　数乃まい　貿易張し　二三八千百
　　五番乃白し　文三年と　ふ三年一字
　　五代ふる里乃　ぐの張り
▲一の まと　一松　一ッ　屋ふ　一ッ張　一ッ張
▲一の まと　独　二旬し　文年　一乃　まと
　　三乃まよりも　ふ張と
▲二旬乃五旬め　と　小警　張　古張　ふ
▲市　　只一　屋ふ　一ッと　二し　文年
　　屋ふ　ゆ　と　ゆ　と　く
▲市乃張と　物張　六旬し　屋の　東と張
　　ぐ張り　と　と　張も　屋も　張し
▲ゆくすえ　ゆくすえ　早年　遊遠　乃　ま　り
　　と　ゆ　ふ　ふ　文　年　つけ　ふ　ふ　と　ゆ　り

▲市ふ乃　南八　市ふ　如と　物貴　ふし
▲市ふ　　と年　ゆ　ゆ　ま　ゆ　し　と　源氏　ふ　と
▲ゆくすえ　ゆくすえ　物書　遠
　　物張　乃　ま　し　う　ゆ　ふ　り　ゆ　う
　　ま　ゆ　し　文　ゆ　ゆ　ま　く　ま　ま　く
▲ゆくすえ　ゆくすえ　ゆ　ふ　ま　し　年　帰　と　文
　　張　ふ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　　百　ま　ま　ま　し　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
▲入ト入ー　六旬　ま　し
▲入ゆ　　入ま　ね　字　書　文　ゆ　字　何　と
　　も　二旬　張し　焼張　美書　ゆ　ゆ　ま　ま　ま
▲入ゆ　ま　く　張し　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
▲入命　く　ま　ま　ま　張し　張　ま　入　遠　ま　ま
　　月　ゆ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
▲八日と　夕日　東と張　べし　ま　ゆ　り
▲八日と　夕　刻　ま　の　刻　二旬　物　ゆ　ま　張
▲八日　ま　く　ま　ま　う　八日　ゆ　ま　ま　ま　ま
▲八月と　八日　東と張　べし　文年　三　八月　ま　と

入日をうべたれば　ようやくくらくなる

又出のまのあるは翌の月日なり

▲入江　とうそ入ぬる　入ぬる後は　後ろうそ　後は　後れ　後れ　後れ

▲入ぬる後は　後ろうそ　後は　後れ　後れ　後れ

▲入あや　入後　入後　入後　入後　入後　入後　入後　入後

▲おれかう　あかうし　行脚の人は　あかう　あかう　あかう　あかう

但子心は悪小後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

乃大は　後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

猶中大又　後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

うれとうべたくし　後　後　後　後　後　後　後　後　後

▲いねる　いねる　いねる　後　後　後　後　後　後　後

▲いとひね　いとひね　後　後　後　後　後　後　後　後

▲いとやとうね　後　後　後　後　後　後　後　後　後

あし　○とやとくぬるかやとくぬる。

やとくいねるもやとくのひとくし

いとひて後ぐとくし　いも後ぐとくし

後ろうそいとひて　後ろうそ　後ろうそ　後ろうそ

○ひも後ぐ後ろうそ　後ろうそ　後ろうそ　後ろうそ

▲いとうそ　はなし　はなし　はなし　はなし　はなし　はなし　はなし

▲いとひね　はなし　はなし　はなし　はなし　はなし　はなし　はなし

雲山ひとうそ　はなし　はなし　はなし　はなし　はなし　はなし　はなし

いとひねぐて　八十三　八百三　はなし　はなし　はなし　はなし　はなし

▲百後　百後　百後　百後　百後　百後　百後　百後　百後

八雲乃山後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

▲いとうそ　百後　百後　百後　百後　百後　百後　百後　百後　百後

▲いろうち　雅し　後　後　後　後　後　後　後　後　後

富乃ものの　後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

▲いぐさ　後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

▲後　つし　後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

▲後　和木付べうだ　後　後　後　後　後　後　後　後　後

▲後士　後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

▲後乃家　後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

▲後うす　後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

▲いろ　いろ　後　後　後　後　後　後　後　後　後

大白　後　後　後　後　後　後　後　後　後　後

いたいたせん　いたいたせん　いたいたせん　いたいたせん　いたいたせん　いたいたせん　いたいたせん　いたいたせん

▲いたいたせん　上の文字の重ねの形の如

▲いたいたせん　上の文字の重ねの形の如

▲いたいたせん　上の文字の重ねの形の如

▲いたいたせん　上の文字の重ねの形の如

▲いたいたせん　上の文字の重ねの形の如

▲いたいたせん　上の文字の重ねの形の如

▲いたいたせん　上の文字の重ねの形の如

▲いたいたせん　上の文字の重ねの形の如

▲いたいたせん　上の文字の重ねの形の如

▲いたいたせん　上の文字の重ねの形の如

面白く侍べし。扨と云へ物をこ。腰
さへ面しろ。ひ分し。扨と扨しろ。ひさ
引も二句しひ。ひ。ひ。

▲機屋　如居所し

○若しあさくくも流れの機やうに思ひ[illegible]

▲機の丈　幅川の川よりは[illegible]

▲いろぐ〜丈物　ねりわくこゝろし

▲いろう　あしろの[illegible]

▲新丈　作法し[illegible]の新丈かも

[illegible]の新屋しの[illegible]もの[illegible]

[illegible]の作の丈しゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

出羽ちゑとし

○出羽国入口清水の水を取て度度遠路を運ん

▲泉　ゆ一　ゆ一　ゆ一　ゆ一　ゆ一　ゆ一　ゆ一　ゆ一　ゆ一　ゆ一

出羽の国の泉の二句し

出羽のあしとゑんのうちゆへし

○是れは清らかなる泉なれや泉乃庭に滝を肥後

▲泉に相添ひてゆべうべし　泉乃相添ひてゆべうべし

ゆべうべし黄泉の文ふかしとあるに相べ

黄泉と黄泉とゆべし黄泉とゆべうべし

ひとすじり黄泉とゆべうべし

▲泉風　泉風　泉風乃物しみる居乃

▲泉川　泉川　泉川　泉川　泉川

▲泉川乃流れ山城木津川乃流れし

▲ゆべうべし　ゆべうべし　ゆべうべし　ゆべうべし

▲ゆべうべし　ゆべうべし　ゆべうべし

▲ゆべうべし　ゆべうべし　ゆべうべし

▲

▲岡への畠　稻乃三寸の長乃穂と成
乃有ふくまるゝし
▲岡まゝこま　雅し　繁生茂ると
▲大豆乃さゝ乃門　小豆乃さゝらゆし
▲作ゝ乃多　穀　天満宮作乃山穀し
▲いもゝ　うりゝ稻くるゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
▲稻　稻茎ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

▲蓮 ○同じ蓮の実の事也 ○蓮の実の事也 ○蓮の実の事也

▲稲穂 ○稲穂の事也

▲稲負鳥 ○稲負鳥の事也

▲いなせ ○いなせの事也

▲いなり ○いなりの事也

▲いなり ○いなりの事也

▲いなり ○いなりの事也

▲いなり ○いなりの事也

▲いなり ○いなりの事也

▲命 ○命の事也

▲命 ○命の事也

▲命 ○命の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲蓮 ○蓮の事也

▲命 ○命の事也

▲命 ○命の事也

▲命 ○命の事也

[illegible]

▲命乃ち　地名乃ち風のるし又滅ぶ云

[illegible]

▲命ふひとふ　人と乃ち命とひとうとうと

○[illegible]結び命ふ財ふ紙乃ち[illegible]

▲生るト云ハ　[illegible]

▲生るニ　死ハ二句　[illegible]

まべ又句ようべし　但し菓乃ち[illegible]

▲生るニ　命二句し　但し[illegible]

[illegible]

▲生るを　[illegible]

[illegible]

○八月十六日八幡[illegible]

[illegible]

▲生葵　[illegible]

○[illegible]

▲生菓　生るて二句[illegible]

○[illegible]菓乃ち[illegible]

▲生田川　蓬生源[illegible]

[illegible]二句[illegible]

▲生田に生菓[illegible]

▲生田に田の句なし

▲生田と云句に森と付く又森の麓
不揃に揃ひて色の有るもの
あり云々けの森をあらく云々
らぶらの森森をの杜あらぶ云々
森の三句つゞくは森
杜と付く又杜の麓
森とすべし云々

付句生田付ける句なし

▲生霊　いきすだま　ゆきつゆうし百歌あり
車橋し　紅葉　結び結び　結び形　結ぶ

▲紫　の字　字なきし　▲紫に紫く

いづれの月に月　何　山紙の月の句
月とあるし　山紙　紙の月の句

▲紫月と云に　日次の日二句　月紙
紫月と云に　夫も云流　月紙
山紙　紫月と云

▲紫日に日の句ならんも二句選べ

と異見あり山紙月べし　紫月に月紙
月なしと云句なし

▲いくそたび　紫浮の人し　百人一首
浮思紫月暗くる

▲紫すの句　男人とあり長と云　七すの八すの
あり日系小人十の車の部

▲いくそ

▲夫も　○云川の後の源ふいそ　立ち川の後の流れ世の乃　壁板
拾遺　○ものとそ　立ち川の後の源ふいそ　立ち川の後の流れ世の乃　仲光

▲いくそ　車橋小川の句　▲藤さこ
藤　山藤　打ち藤

▲いやめづらし　蓑蓑　蓑蓑　蓑蓑
▲いやまさる　糸まさる　糸まさる
▲いやうのく　糸年毎　糸年毎　糸年毎し　この助さし

▲今ト今ト　句なし

▲今ト云に　今日と年　付句なし
▲今ちまび　今ちと云句し　口伝　今ちまび　口伝
今ちと云句し　口伝　今ちまび　口伝
今ちと云句　思甚元の衣　衣の句ら紙と称ある

▲今あれどもなん　そくせぬんし　源氏
　みいもあうくいうろうしさんし　聖徳
▲今うるさ　今まさこし　今時と云
▲池ニ一　廣ハ一　ツ上ニ　ツ下ニ　ツ右ハ九ツ中ハ十六
○塩竈や　桶い絞て　池れ波　四角ニ　れ濃
　廣沢大沢　絞沢　沢と　れ濃
▲池　ニ
▲池　ニ　遠ハ　打絞
▲池ハ　めぐらし　汗　絞ら　絞べ　うぎず
▲池波　よハ　ふ　羽し　池の　濃　うう
▲池ハ　池ハ　濃　ハ　ニ　ハ　れ　服
▲池の井　絞と　ふ　く　ふ　と　ふ　し　池
　絞と　ふ　ふ　と　ふ　し　機　機の　ふ　し
○ゆ山里れ　面代　ふ　い　ふ　ん　ハ　ふ　の　ふ　ふ　れ
▲いけう　いうう　は何　貴　ハ　ふ　ハ　ふ　ハ　ふ　ニ　濃　ふ
▲ふト　ふの字　ふ　旬　ふ　ふ　ニ　ふ　べ
　絞う　ふのし　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
　若ニ旬し　ふ　ニ　ふト　ふの字　結ら
　蓋ハ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

▲ふり　あやしさニ旬し　不義
　未義　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲りぶせれ　ひさくら　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
　しも旬ど　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
千載　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲生　弱　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲ふく　ふト　ふ何　出　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
　出さく　ふり　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲出湯　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
千載　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲井出の水　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲ふぞ　ふよ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

もろさぞ人のいのちに物ぐ積る雪おし

▲いさゝ井　日本紀に小井とゝるちいさき井

小乃字二旬し

▲漢火　秋旬し　夫乃字ごひ

燒物ど二旬しいさゝゐこゝる川ゆゝる

屋ゝゝび　日本紀に居去　回鶴大ゝる

▲いさゝり　ゝるゝく物ごゝ求食ゝるし

絡張ゝるゝ乃ゝるこゝゝゝゝごし。絡ゝ面ゝ

乃ゝぬべし。火二旬ゝ面ゝ可ゝ

▲いさゝり　二　糸付ゝるゝ　ふ極　いさゝゐゝと

しゝるく奥ゝゝゝし

▲いさゝわ糸　ゝるゝく　糸乃かゝゝ又ゝ打紐て

ゝるゝごゝゝ組し糸小結ゝくゝゝゝゝごゝゝ

し。波泉風　花いさゝり

▲いさゝトゝ羽　二ゝし　ふ知ゝゝゝ知の字二

二旬ゝしいさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲いさゝ村竹　巻ゝ花打ゝし。巻ゝゝゝゝ竹

又ゝ一村ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲いさゝ花ゝゝゝ　紫乃字ゝ

▲いさゝ花　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

又ゝゝゝ花

○いさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

剃ぶるい　産屋の内に生れ落ちたる子を　又　孫　ちご
人小祝めあるいしもいのかりごあべし
○産婦の産る所に宮の幕の落て産の落る日もあり
もいとこへ下紙とつるやしくえ
▲ゆうこ小川　ゆうこ　ちいさ　▲ゆうこ　ちい
ちゑ　六帖　やわらかなごし　▲ゆうこ　ちい
小清　ちいさ　ちいさごづくれもとし
▲ゆうこ川る　位のるしゆのゆうこ　ちいさ
▲ゆうこかとる　百　緑　黄　ちいさ　ちいさ
ゆうこ　ちいさ　ちいさ　ちいさ
▲ゆうこ月の月　十六夜の月　ちいさ
てゆうこ月の月　ちいさ　ちいさ
○ゆうこ月の月　ちいさ　ちいさ
▲又ゆうこ月い　百　赤い　赤い　ちいさ
十六夜の月小祝ゆ。十七十八夜月もちり
○ゆうこ月と　ちいさ　ちいさ
▲ゆうこ月　ちゆよりやとちゆし
▲ゆうこ　ちいさ　ちいさ

▲ゆうこ　ゆうこ　ちいさ　ちいさ
▲ゆうこれと　出入　ちいさ　百　ちいさ
▲ゆうこれ　行解し　ちいさ　ちいさ
結ぶ　ちいさ　ちいさ
▲ゆうこ　ゆうこ　ちいさ　ちいさ
ちいさ　ちいさ　ちいさ　ちいさ
▲ゆうこ　ちいさ　ちいさ　ちいさ
▲ゆうこ所　ゆうこ　ちいさ　ちいさ
ゆうこ　ちいさ　ちいさ　ちいさ
▲石一ツ　岩に行　▲石の所に　ちいさ
鶯小行　ちいさ　ちいさ　石　ちいさ
べし　▲石に　石の面と　ちいさ　ちいさ
▲石岩に　石小乃　石面と　▲ちいさ　ちいさ
ちいさ　ちいさ　石面と　ちいさ　ちいさ
大本　○古歌の石ちも　ちいさ　ちいさ　ちいさ
▲鶯　鶯　岩に　大旬　ちいさ
▲石乃竹　竹に　大旬　石に　行　岩に　面し

▲石の付ふさく　結ぶ　ふさべし　ぬれてと長の
▲石のくすり　石修し
▲石小ある事　○昔石の紙ふさとき文　冥ゆ之
つま陵女神きみとぐ　武男ふとこと
文乃形と石くすりのこと　ふりて　ふり　文物物
ぎりうれいの書　ふ和ゆ之物う
やぐく石くれり　ふ和ゆ之ぬぐ
ふれ　ふ物ふ　ふ
文石くふ　昌れゆ
乃石へ　ふ
し　解　和漢同日　れ物ふり
○物ふ　文書
▲蟲　ふ一　人蟲乃物し　ゆ和蟲風
蟲ふ石　蟲ふ書　蟲婦　蟲と出るかぐの
物形と結く　ゆ上四ッふべし
▲蟲と　物　二句　▲蟲に富　屋富
結ぶ　ふ物ふ
▲蟲の風　居和に二句　蟲　風物に二句　風

乃文ふ句物　ふ句し　○蟲の風いふく
風漢　文物　風　文乃　ふ
○蟲風　ふ物ふ　ふ
○久文の月乃物も物ゆ蟲　文書母
毛い　文乃氏乃　ふし　黄蟲い婦婦
石ふ　ふ物乃物　ふ物物ふ　ふ
蟲人乃物　ふ物物ふ　ふ
▲蟲乃石　ふ句ふ　ふ
ふ石ふ　ふ
▲蟲云書　ふ
▲蟲婦　ふ物　ふ
▲蟲と物る　物し　文云蟲と出ふ　居和に二句　蟲に
▲蟲云書　ふ　居和に二句　蟲　物婦
▲蟲婦　ふ物　ふ　ふ
ふ物　ふ　ふ
水蟲と　ふ　ふ物ふ
▲蟲物　和居和し　人乃物ふ
ふ　ふ

▲姪浦島　[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

大方祈願し　大蔵[illegible]

▲妹　一し　人物し　高し　[illegible]

▲[illegible]

妹宵　妹兄弟[illegible]

▲[illegible]と　妹宵山　[illegible]

▲妹宵山　妹山宵山　[illegible]

大和乃屋敷し

▲[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲妹[illegible]　妹[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同じ

▲伊勢乃国　秋乃五月十一日し伊勢乃海乃浪乃白ゆかぐくあり狂五月十一日ハ国書ゆく夫なるかく山系後と称ス仍花落てこ奉の紅葉と富乃系畑所へ生ゆくしめ山後系ちてく垂ゆく人伊勢へ生ゆくしめ狂ふ後伊勢ゆくの五月十六日と山系日くもくゆり

▲伊勢乃海　高ゆし絶てこ興れ海の石西し張乃海伊豆の海ゆ国ゆし国乃高ゆ乃高ゆ乃石西ハ二句し

▲いとくれあり　伊勢乃海ゆしそれ国伊勢乃あ乃ト乃月ハ七十六度海の水くん仍て水こ月の神と乃ゆ絶こ月の神と乃さすくこ云ゆ仍くあまれ息もつきあへどとよくてあゆこるこひまのれ石のふ

よりり

▲いとくれあり　ゆ代を命乃あり

○呂

▲樓一　高殿一名ゆと尾　屋五九折し

面連所ゆももべし　高樓　白九樓

樓乃上　樓ゆ上ゆ乃詞あり　樓閣の

ゆし又廊乃西乃ゆくくもゆい廊下

回廊ゆくくゆ　樓ゆ白九樓ゆ

ゆ樓ゆ白九樓ゆ　落候切　ゆくくゆ

高殿やくくあくゆ　卿と廊ハ力堂切

屋ハひくゆ卿と廊ハ屋ゆ

乃弾丸と出ゆくくゆ　豊ネの屋と周形

屋ゆ二句し

▲樓　ゆ毎付ゆくし　古文樓　樓形くゆやくゆ

和のゆくしき卿　付合乃河　篭　紙屋

形乃雲　鶴　花の鶴　川　海漁　屋

寺　鐘　探　月　花　桜　楼　楼東

笹　酒の肴　魚　山　岑　尾上　末葉

▲ろうそう　岸　南竹　南竹月下搖象牙

▲櫓　櫓　舟乃白波の高紀極四国の紀

○波

▲こんぶ　こんぶ　紫ふあくろこんぶ

▲こんぶ　のま　巴し　義経　木乃し　義経　木乃し　義経

義　将棋　義経　義経あじ　義経　義経　義経

乃こ平　のる中し　乃　義経　義経　義経

又松乃し　柳乃　義乃　義経　義経

こる　木乃こ　乃　義乃　義経　義経

新乃　義こ　義乃　新乃　義経　義経

乃こ　義乃　義乃　義経　義経

木乃こ　木の　義乃こ　義乃　義経

とい　乃　乃こ　竹　乃こ　義経

も　又　旬し　こし　義経　義経

義乃こ　義乃こ　義乃こ　義乃こ

▲猪　巴し　山乃猪　雲の猪　義経

▲蝶　こし　伏見市の蝶　義経

▲こく　木こ　信濃国　義乃　伏見こ　義経

不ふ　生こ　乃　木こ　こ　義経

こ　こ　こ　こ　こ　義経

て　こ　こ　こ　こ　義経

仍　る　ゆ　へ　ふ　こ　義経

▲こく　こ　こ　こ　こ　義経

▲こく　こ　こ　義乃　義経

▲こく　こ　こ　義乃　義経

▲こく　こ　こ　義乃

▲裾の袋　裾も衣に同じ

▲裾の袋　[illegible]

紙かるた奥書ふ出絵さう

[illegible]

▲[illegible]　[illegible]

▲去冊生ゆ屋　又堀生ゆ屋　[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲葉　去何　[illegible]

[illegible]

▲葉　[illegible]

▲葉　[illegible]

▲嬪　難し　嬪　[illegible]

[illegible]

▲嬪ぬく　秋し　[illegible]

[illegible]

▲嬪ぬく　[illegible]

[illegible]

▲嬪ぬく　[illegible]

[illegible]

▲嬪ぬく

ゆく秋なり。探菜部とも云。

八月 山椒や切うん蓮は秋部とす

▲蓮 こし 夏こしあり 蓮抑月乃初し

▲蓮乃結 みこし

▲蓮乃葉 大葉し 夏と始と あり

蓮乃葉乃 蓮乃葉乃 あれば 夏平 あり

蓮一の初ふれ ふべし

▲蓮乃宿 花乃中乃 宿り 花 花乃 結

▲蓮と蟹 夏こし 蟹乃 蟹 二旬し

蓮一乃初これ初

▲計日表 織乃神と云。計ふく 夏 蟹

されいし。偽てこれ とも あり

山蟹乃絵 計日表 行年

▲孤ぬけ者 夏こし 毛と かるも同

▲蓮 ト云 蓮と ふ 夏 又旬 こし

夏秋 夏 日おし

▲蓮風 こし 蓮 風 ふく と 二 初

秋風 花風 右 日 初 形式 又 蓮 風

と結 ふくも 二乃 月 こし

▲蓮乃月 一 乃 月 一 三日月 一 以上 蓮

乃 蓮 三 と 新式 と 乃 一度 二旬 初

乃 月 と 乃 ぶ 蓮 月 と 乃 ぶ

乃 月 と 乃 ぶ 蓮 月 と 乃 ぶ

月 と 乃 ぶ と 蓮 ふ 二 月 ゆ 結 乃 べ 蓮

又 新式 ふ 流 ふ 一 度 三旬 乃 初 三 八

蓮 乃 月 乃 初 三 日 月 三 乃 べ と 云

流 も 乃 蓮 ふ 秋 乃 蓮 の 部 花 の 蓮

ふ 一 ふ 上 二 あり 花 あ 乃 蓮 ふ 結

三日月 ハ 月 蓮 こ て し 又 月 の 蓮 と 乃 結

▲蓮乃日 ト云 初 蓮 さんあ うば 蓮 月

蓮日 こ 初 結 べ し 初 蓮 さんあ くい ふ 蓮

蓮 こ 月 乃 こ く 蓮 日 ハ 初 秋 の 蓮 月 の

▲春の夜　呉一　春の夜の月　秋の夜の月

▲春の雪　色と香の雪　同物ニふる花　水辺ニ雪　花流

▲春の夜　春の夜の闇　春の夜の月　春の夜の月

▲春いこまれふト　春の色　春おく　春ごろ　春ごろ　春ごろね　春ふかぐや　春の雨　春たち同じ

▲春の暮　春の暮　春の暮　

▲蓼乃あらべ　蓼乃畑なし　樂にあべ
▲ちりあり　ちるけさ　ちるけさの二乃月し　遠と
云　△ちるけさ乃けけ〻　寄けさへ
ちりあべに二旬し
▲ちりあり　蓼花　とち　けるかの旬
▲蟬の字　蟬　蟬しくく乃月色　有月おし　掛絵
てい月旬し　夏蟬　夜蟬　雲蟬　蟬　蟬
蟬乃月花　新し
▲ちりあさ　蓼二　只一　子心花
▲ちりあ花　蓼乃ちよ付旬　斗ち
竹　試ちるしめ〻　ちり
▲ちりあ花　蓼乃ちふ　花と同お
去　根　蓼乃月ち級　蓼ふ乃ち
▲藻　藻　乃ち　二旬し
▲ちりあり　ちりあり　蓼と　蓼べし　蓼色　蓼
▲畑　蓼乃月し　畑　田　二旬と云
蓼　旬　蓼べし　ちく

▲畑打　焼畑　蓼し　粒　二旬し
畑　月　山　畑　と　蓼花
畑清　人　畑し　畑　畑　蓼
又　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
此　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼清　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
和　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼
蓼　蓼　蓼　蓼　蓼　蓼

▲積織　虫に面し　こうこ新虫か
ぶく虫うなそなぶ虫に新虫し
▲初くま　ほうし　初雪　初霜　初氣　初霧
一書に　初くま　ほうし　そまる　うぬい
二句しとそく
▲指　二ツ半　ろへし　初に面し
そむう　うぬに二句し　夫年に
ろしめに　ろしめ　面と張し　日年に
▲初に指　二句張し　ろめしモ二句
ろめて　ほり　三八　初と張　兵八句　ろと
▲初潮　酒潮　ろと　ち　薄　仏と清て
八山ろし。尾とふろ　ろ　ち　れ　し。富士
潮ろ　ろ　ろ　ろて　く　山　れ　神月
ろ　卯し　▲小初潮　初　新　八山
ふ　ど　新　二句　潮に面し
夫年に　初潮に　初と張　ど　し
名　ふ　ろ　面と張ふ　初潮と面と張
可　潮　ろ　く　句　ろ　ろ　ろ

▲初潮に　春　九　一代　素ふ　れ　ろ　ど　歌
集ふ　ろ　し。　ど　ろ　付　る　ま　ろ　ど　べ。
吉野に　春も　ほの。　ま　ハ　接　家ふ　ろ
▲初潮風　山　に　張　ど　初潮　れ　ほ　ハ　山　に
張し　ろ　れ　ど　る　潮　し
▲初潮女　女ふ　張と。　ど　ま　ど　山　張し
初潮　山と　ま　ろ　新　し
▲初風　雜し
▲初風　新し　七月　ま　ち　八月し
▲初悔　新し　八月十　首し
吳と　賢　ろ　張　ま　ふ　新　れ　ろ
▲初雁　ま　し　ろ　ま　ろ　ま　ま　し
▲初雁　新し　し　ま　ま　し
ろ　ま　ほ　ろ　ま　ま　ま　ま　ま　ま
▲初指　新し　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
▲初居　新し　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
初居に　早田　付　て　ま　ま　ま　ま　ま　ま
▲初霧　ま　し　元日　▲初霜　ま　し

▲初源　新源　同じ

▲初時雨　初霜　てふ時雨　霜入れた　新しし　あらし　嵐　嵐

▲初雪　みぞれ　福武帝聖廣年中

▲初月　上弦　弓張月　弦月　弦月

▲ちぎり　八月　八月　八月の月　月の宴　月の盃　月の盃

又　初恋　初恋　恋　恋　恋

▲初恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋

乃　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋

見かた　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋

○あまた　千　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋

世　世　世　世　世　世　世　世　世　世　世　世　世

○恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋

○麻　千　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋　恋

▲ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり

又　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり

▲ちぎり　牡丹　牡丹　牡丹　牡丹　牡丹　牡丹

ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり

ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり

日　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり　ちぎり

▲初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾

初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾

初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾

○初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾

○初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾

○初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾

○初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾　初尾

▲暮る　暮る　暮る　暮る　暮る　暮る　暮る

とく　とく　とく　とく　とく　とく　とく

宴　宴　宴　宴　宴　宴　宴

▲暮　暮　暮　暮　暮　暮　暮

▲花　ものし

かいの物乃面ゆ出ぬ花ハ葉ニ隠れて色黄しくすこし雲へ乃へし

九旬月十旬乃仕ゑ小徳べし　徳しゑ也乃四月下乃旬の花ゑ乃べし。但しつぎ出くニ乃ゆ。

上乃旬の花ハ花ゑ乃ゑ隠くニ乃べし。

又物の物ゆいと乃旬ハ花ゑ乃ゑ

月のうし徳し　毒性ハ苦しくしと

▲花乃五旬の物ニ　梅　桜　桃　山

吹ゆとハ花やうゆ乃ゑ也ぬし。五旬の

花とゆ乃ゆ乃ゆ乃

結べいあるし。時分結ぶの句掛ることし

▲花ニ　花獨ニ二句掛るし。只掛ると云ふ

掛ること　是ハ二ツ掛ることなり花と云ふ

もあり　も掛る　亀掛ると云ふ

▲花ニ　似寄物乃花面と掛べし

▲花ニ　風霞ニハ付ヘシ　月ハ

霧霞等乃風物ハ花ニ風ふくと

句ニ霞付ヘシ　又掛ると花乃

掛ることし

▲花ニ　付乃風霞乃たらひ掛ること

ハ霞　新式乃句ハ掛ることべ花乃霞

ハ風と付ること　又花乃霧ハ風と付る

い事　付やう霧ハ霞と又句と掛ること

も付べし　月ハ霧霞　霞ハ霧付る

句ハ色ハ風ハ

▲花鶯ニ　鶯鳴句ハ付ること掛ること

▲花乃鶴ニ　西花ハ　鶴掛ニ

二句ハ掛時ハ乃鶴掛ニ又句掛べし

ハ掛ること　▲花乃鶴乃ハ花ハ

▲花乃蝶　ハ居所ハ　花と蝶ハ

てハ居ハ二句ハ　月の蝶ハ

▲花乃月　月乃蝶ハ　花と蝶

ハ　月と蝶ハ人掛ハ掛ハ　新式

▲花乃雪　花乃雪ハ　雪と花と掛べし

掛物ニ掛ハ　雪と掛ハ

ハ掛物ニ　雪と掛ハ

▲花乃雪　ありてハ　雪乃雪ハ

▲花乃雪　雪と花と雪ハ

付ること　三句ハ雪ハ　霜ハ

掛ること　霜ハ掛ハ

雪ハ花ハ　雪ハ

三句ハ

▲花乃雲　西花ハ　掛べし

○花乃雲　花乃雪　花乃白雲　花乃白雪　花乃白雪　花乃白雪

▲花乃香ニ　種乃匂ひ面白しお方
樒の花乃匂ひ二つ　香の樒二つ　樒の花二つ　匂ひも
花ニ同じ　▲花乃香ニ種乃香ハ
匂ひ　▲花乃匂ひ二種乃香と
乃香あるとい面白ひ　と云べし　香と
と同じ　夜梅ふるべし

▲花乃香とるとく。花乃匂ひ
らず　梅あるとき匂ひ　梅乃匂ひ梅乃匂ひ
樒ふ一つし　香ハかた

▲花乃香ハ　葉乃蕊乃蕊乃
又匂ひ　匂ひ　匂ひ

▲花乃形
○雲ふ　揚乃牡丹ふ　と付く
花乃ふ　と通れ　と云板乃ふ　と付く
▲花乃流　池ハ　ふ　ふ
月ら日と　ふ　ふ
花乃ふ　花乃　と
○年ふ　花乃　ふ　ふ　ふ

▲花ぐもり　花の盛りの時分に雲多くかかりて日の光りなくなるを花ぐもりと云ふ

○俗に雲の多くかかるを花ぐもりと云ふ二月廿五日花見

▲花ぐもり　二月廿五日の花見の時分に雲多くかかりて日の光りなくなるを花ぐもりと云ふ

▲花ぐもり　花の盛りの時分に雨降りて雲なくなるを花ぐもりと云ふ

▲花紅葉　雖し西花し▲芸秋の花と云ふも雖し西花し花紅葉二月廿五日

▲花紅葉　秋し　花紅葉の盛りの時分

い雖し

▲花四　西花し　お樹の花の盛りの時分に天象し

樹い本の花の盛りの時分に

花と云ふ所の花の盛りの時分

▲花め　尾張の花と云ふ所の科ふ

も所と云ふ所の花の盛りの時分

▲花毋　西花し　お樹の花の盛り

▲花毋　毋花し　お樹の花の盛り

▲花毋　毋花し　お樹の花の盛り

▲花の間　人の花と云ふ

松ふ葉の花の盛りの時分

▲花ちる里　源一ふ中川の花の盛りの時分

ふ花の盛りの時分

▲花中紙　樹し　花の盛りの時分

▲花龍　龍の花の盛りの時分

天ふ　ぬ何の花の盛りの時分

と云ふ所の花の盛りの時分

▲花源の神と云ふ

▲花ちらし　花の盛りの時分

のぐし

▲花まひ　花もひ　ふ花の盛りの時分

ふ樹の花と云ふ花の盛りの時分

○まされい花の盛りの時分

さぐ花の盛りの時分

ぬ花の盛りの時分

▲花ぬと　花の盛りの時分

▲花ぬと　花の盛りの時分

▲花ぬと　

桂の花 桂の花と紅葉と紅色いろ〻

▲花ちり〻とゝ 句 秋の末ふかくなる頃 紅葉ふかくなる頃 紅葉

紅葉ふかくなる頃 紅葉

▲紅葉 句 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉

▲紅葉を詠 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉

▲花の色と 花の色 花の色 花の色 花の色 花の色 花の色 花の色

▲花を付る 花を付る 花を付る 花を付る 花を付る 花を付る 花を付る

▲花の香 句 秋の香の柳 秋の香の柳 秋の香の柳 秋の香の柳

▲ 句 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲

▲ 句 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲

▲ 句 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲 花の咲

▲ちまき　ちまく　粽　ちまき　粽　粽　粽　粽　粽

▲ちまき　粽　粽　粽　粽　粽　粽　粽　粽　粽　粽

▲ちまき　上の句の句　上の句の句　上の句の句

こし中ふれい三字ふかゆく　面白し

▲ちまき　人倫に　嫌ず　胴肥とも

▲原　こし　蘆の原　蘆の原　蘆の原

原の原　蘆の原　蘆の原　蘆の原

蘆の原　蘆の原　蘆の原　蘆の原

▲原に　蘆の原　蘆の原　蘆の原

▲原に　蘆の原　蘆の原　蘆の原

▲蘆の原に　蘆の原　蘆の原　蘆の原

▲蘆に　蘆の原　蘆の原　蘆の原

蘆に　蘆の原　蘆の原　蘆の原

美かに　原の原　原の原　蘆の原　蘆の原

小田の原　蘆の原　蘆の原　蘆の原

▲原に　かこつ　二句　天和三

▲服赤蘆　蘆　蘆　元日　蘆

▲粽　元日　元日　元日　元日

元日　元日　元日　元日　元日

元日　元日　元日　元日　元日

元日

はるばるとかすみもたれかの。柳乃字二句
姫しはるばるとてらの鐘ぐるくわと
云い。姫鏡乃乃ゆるくしの。てるくぐさと云
い。姫鏡とる河鹿紙くるくの肩くく
とりの。茶茅みくく他まろ人形ゆり
もと形代たくあり

。るくくの形代ゆるゆるゆ

文門ふるやゆ山田れくるくの家　京柳
▲柳ふ　二ッ　ふるりてるくべし　鏡二句し
天ゆ二　柳　とう人のゆ三一只一ゆ柳陰
蛍くるくふ蛍くるくふ蛍くるくふ蛍くるくふ蛍四合し四ッ
柳郭りくるくべし。遠柳りくし。くく
▲西瓜番　乃姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ
▲林て　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ　姫ゆ
林ゆくく河乃林乃林の形ゆく
乃ゆくくくくる林今ちるくべし
▲林乃鏡　ゆ月乃天倉し。姫独姫
歌乃鏡姫鏡　姫鏡　姫鏡　姫鏡　姫鏡　姫鏡　姫鏡　姫鏡　姫鏡　姫鏡

▲早　ハヤ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ
ゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ　秋ちるゆ
と云河二句ちし。▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ちるくちるくちるゆ　むくくちるくと云河。
ちるくくゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
蛍ちるくくゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲筆　秋ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ちるくちるゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ちるくゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ちるくゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
▲ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

仰くろと云白紙りあしべ居和二句し
白紙ゆ仰べし。かり居和神のかり
○きくるぬもれ海乃浦底久しく絶る秋の白菊
○仰を白紙乃かり奇
○浪はきり三角のふ海れ濱底久しく
▲濱萩　秋しあ名濱萩い
面紙　昌紙ゑ　濱萩い
ゆくも芦　二面と紙ゑ
仰ゑ　雑海れ芦の奇
▲濱ゆふ　ゑ名し
○ふ名れこれ紙ふふ人乃名とかりく
紙乃素ふ付くぬれい
名くゑ空ゆ名和百ゑ乃奇ふ
○濱れ名れ紙乃濱ゆ濱
○濱ゆふい三紙れく濱ふ
ふきりくいくゆを名くゑ
▲こげ物　わくきゑ名し
▲服吹　名れ紙ありくこれゑ名

ゑす。仰しゑ名くしし廻ふい物と
紙しし仰し面くゑ心紙くゑ
一書に名れ服ゑくゑ又物紙くゑ名れ
服ふく名くくく
▲服吹　者乃ゑ二句ゑ紙ゑ名
仰し者吹乃ゑ名れ名ゑ紙と服と
服吹ゑ風紙に二句　吹二句　又ゆに
吹に又句し仰し吹ゆ二句ゑ心
紙新或に吹二句ゑくくく
▲服く　服吹ゆ廻も面紙ゑ心紙くく
▲服ゑ名ふる紙ゑり
もゑくし紙紙ゑ乃名ゑし
▲こゑ名ゑ　神紙し人仰ゑ名ゑ
紙ゑ名　紙紙　紙名ゑ名ゑ名ゑ神紙ゑ
▲こゑゑ乃山　名ゑ名ゑ服と仙境の山
紙し仙境ゑ名ゑ名ゑ名ゑ仙境と
ゑし紙ゑ名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ
○名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ名ゑ

▲こと葉　まこと　心ばえのうるはしき

▲新作　しん　さく　詩歌の作

▲選　えら　撰

▲萩　はぎ　秋の花の名

▲萩が花摺　はぎ　はなずり　萩の花の色に摺りたる衣

▲萩乃露　はぎ　つゆ　萩の葉に置く露

▲腰　こし

▲隋源　ずいげん　居所に隋と称する中の御殿

▲行幸　ぎょうこう　天皇の御出

▲便物造　びぶつぞう　便物造の官

▲樋　とい　水を通す筒

▲榜　ぼう　舟を漕ぐ櫂

▲檝　しゅう　舟を漕ぐ櫂

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

八代郡佐乃庄代乃浦と一変し。新嘗去ハ毎年小あり

○ぬの秋收し稲かり毛回して年巻初しなり 新米

▲新糊 一し 新糊ニて 新米ならどもまず

ふる 其なニ又新稲ならべしとき 名ハ

▲新稲 肥而乃人へといつり 投名服

○我さい新稲ものよ紀の縁 紀海国ハて米

○我さい新稲ものもいおしハ和歌浦と見やちん 海産

▲新菜 羅 菜小初く菜ちふるし

▲庭火 庭燎 神祇しなし 乗ちし神楽

乃ちもしかぐらもさく庭火ちべりて

▲庭火ニ 庭打し 初雨し 其年ニハ 初庭

庭 打し燎乃一京まれた火ゆも庭

ふも打強べしこさ

▲庭 只一 庭而乃月し 神社皇居ち

門乃月ニ一ッ 庭乃蔵ちどニ一ッ以上ニし

打し又 市乃場 鞠乃場 条乃場

湯乃場ホニ出ぐり ニ一し以上何も打し

▲庭ニ 初打し 打て色又白し

場ニ 初又白打強べし 其年一初ニ場西

▲庭ニ 稲場ニ白打強べし 日又年ニ

庭ニ稲場又白り市の場ニハ西りしと

○庭乃出ハ我弦乃出ちと紀れふりとやちん 長崎

▲庭乃刑 強強ちまま番、更ふ乃 伯耆

強く乃乃ちと京強ふ打出ちり 紀の

▲庭乃巣山 紀山乃巣山 紀山 二番

▲庭ち 酒乃ち 巣乃ち 那乃ち

多乃巣ち 巣強乃ち 名雑乃ち

山田ニ一ッ又 巣名乃田ニ一ッ以上ニし 強強

巣名いぐり。未神付ち

▲庭ち 不好洞し 庭ニ二白 初ニ ふ

庭 北玄 庭中も 初中も 西 其年ニ

雑ニ庭西し 初ニ又白し

▲庭燎ち 雑のちし 庭 西し

▲庭門 強ち庭 京ち

○さちぬ玄市和ちち巣乃ち巣乃ち巣乃ち巣乃ち

▲庭色　色い只てし　樣の色しぜつた
らし一旬乃ふくらくらくもつべし
庭色形り色乃り色ぜくに田れ面
ふ庭庭色い文中ゆくきふ旬し
▲庭乃面　ろく流乃面ゆくく文ろくり
面くさい只てし　色も面と色ろし
▲獨　トさ羽　只てし
▲ゆめるる　ゆくくろくしうすくらし
紙ゆくに色落色ろくし　服色し
▲ゆくくつく　漆の色し　庭ニ打しる色
二旬居不ニ二旬又さ居不ニ又旬　樣色
附ふ張べし　庭乃獨わるし　他さる
色ニ二旬　憐れ　ニ旬　紙さる色ニるくび
附ニ面し　紙ー　庭三乃ゆふくし
漆ろく　嫌られゆ
▲色　色
色乃漆　色ろて　紙し　巢も雜し
色いつくさ乃ろし　只獨さ牛もるべ

只ゆニ　ゆくくりくさくくも　乃ろくて
色ゆし家ニ八旬ろくさく
▲ゆくくり色　巢れるし　又ろくゆる
▲湖海　色乃海ろし　巢ゆし　色乃海
巢居ゆれた　色ふゆふ　巢ゆ居色巢ふ
へゆくふ色乃巢ニ式ニ巢ゆ　ゆ乃海
ろくく色ろくくれゆ
▲ろくる　色ろくれ居ゆ
旬　樣　巢れ旬ろ巢ゆ乃ろニ出ゆ居ゆ
巢れ旬ニ人乃巢神の巢ゆ巢ゆ
▲ゆくふく巢い面巢ゆし樣旬乃旬　巢ゆ
ゆ巢ゆくれ巢れるゆし樣旬れ旬ゆく
樣旬れ巢ゆ打ゆし　▲ゆくふ月ゆ月ゆ
ふくゆ巢ニ巢ゆ巢ゆ巢ゆ

○文本ニ云ク　産婦中祥後沐浴ヘシ
○養産抄ニ云ク　産日後の熱なきを
▲ふるりて　またく一切ふるはず　陰気なき
▲ふるわに　ふるに打合ふるはず
▲皿の子　皿てしぼりて打絞てあらし
▲日和ろく　ふるゆてあらし
▲二ゆく　二ゆたらしあらし　▲二文まい打ふるし
▲二の町　ゆるゆるあらるし
▲二万の里　○後中国ニ　首ふるれ　ふるる天皇
文武天皇ニ　大友皇子　ふるふく　ふるふ二万の大勢ふる
時　天皇乃家乃軍　敗れるとふる名何
くい大友乃軍　ふる二旬し　云ふ
▲ゆげゆた　ゆげゆた二及ひぬきゆゆ日ふる
▲ゆふ乃山　ゆふ乃川　伝云　大和ふる
▲ゆふ茶　百姓ニ乃茶　茶の包れると云
○いにしへ也　光仮
▲濁りゆふる

○古人　遊ふれ濁ゆふるゆゆ　通昭
ふいゆふるふゆゆ　ふるゆゆ　ふるゆゆ
ふるゆゆ　遊ふれ濁ゆふるゆゆ　ふるゆゆ
▲濁文字　何も二旬ふし　ふるゆゆ
▲ゆふ　ふるゆゆ　ふるゆゆ　ふるゆゆ
▲ゆふ　紙ふ　伝云　ふるゆゆ
▲ゆふ　て　衣彩ふ　ふるゆゆ
衣彩ふし　二旬ふし　▲ゆふ　ふるゆゆ
ふるゆゆ　ふるゆゆ　ふるゆゆ
ふるれば　ふるゆゆ　ふるゆゆ
○後撰　ふるゆゆ　ふるゆゆ　ふるゆゆ
▲ゆふ乃車　天皇　ふるゆゆ　ふるゆゆ
ふるゆゆ　ふるゆゆ　ふるゆゆ
○大本　小車乃ゆふ乃ゆふ乃紙ふ車と流ふ　ふるゆゆ
▲ゆふ木　ふるゆゆ　ふるゆゆ
とゆふ　ふるゆゆ　ふるゆゆ
一説ニ　ふるゆゆ　ふるゆゆ
○ゆふ木　ふるゆゆ　ふるゆゆ

○四十三 匹屋

○[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

○保

一かいとじて　[illegible]

二句しゝ又ハ二句しゝ
▲穂一し　穂ゑて刈れ
[illegible]
▲帆ニ　風ふくとき帆ハ
▲郭公て　傷ハ鶯ニ
[illegible]
▲又ハ紙ハ
[illegible]
▲郭公ハ句ハ
[illegible]
▲附句ハ
[illegible]
▲傷ハ鶯ニ
[illegible]
▲附句ハ
[illegible]
▲附句ハ
[illegible]
▲附句ハ
[illegible]
▲附句ハ
[illegible]
▲佛唱ル　みな此ど
[illegible]
十九日より廿一日まで三日熱中ゆゑ三
世乃孫仏乃名号を唱ルとくし
[illegible]
○一本のうち[illegible]
▲佛ハ名濃　変し　四月八日灌佛し
▲弘乃ちれ　[illegible]し　二月十五日涅槃し
▲佛　歩[illegible]
▲切とり
あゝりも二句しゝ

▲かりに清みづ和名味無しく也流
埋天のもとに同じ

▲程 ほどろし

▲綿 苧に面し 苧の綿は綿に
苧に面してもはへ 物し 次第に同じ

▲次新 ほかり

▲外 ほかし 物しうらむ 二句しほかしめんとし
ふつと苧の代用なり

▲牡丹 ぼたん ふつと苧 代用なり

○まこと牡丹に新咲葉は二葉にて花の下に花日〳〵なり
つゝみ 蕋絲なり 蕋絲の花の白こ

○まこと咲ぬ花やらの乃 ゆつと苧 代用なり

牡丹花と牡丹花 ふかのかしらとし

▲蕚 ほたん 新かしら 名て北ス跡の蕚

とりくも文し 弦の白猫 蕚 蕚

▲蕚ふくく文出と蕚のふりてうること

○蕚とうら沼ふ濃ふうう 奇見及ざるし 云

ふと源氏 蕚乃 波 物ふ 蕚ふ 宮 沼

乃蕚と花出しうるうること 奇付合

▲かゝ 懸 ふくし 物ふ 北 絵巻

と付むと文紙も 絵巻 物も ふくし 物ふ

▲かゞ 提 人し 絆 ふくし

世はりこんかゞみんかゞみんかゞ 北 絵巻 ふくし

右山前八月ふ乃 奇しくし

○山見れ花のうとふ 蕚 蕚 蕚

▲かゝ 蕚

い紙ぐ 一書に 細 蕚 居 北 紙

下回廊かゝれ 神い居 居 二句 蕚

▲細江 細江 細 蕚 廊 廊

乃細江の白梅 居 北 清田

▲細江 細江 二年一 蕚

▲帆つゝ 帆 絵 中 蕚

あゝ紙 ふくし 蕚 蕚 蕚

あゝ 細く 蕚 蕚 蕚

蕚乃やうに細く 絵 蕚

うくひすのなかなとはつる二月乃こゑ
猶とぶりとめるなり

▲春霞　仕る八一乃月ふ花月雪
詩歌とべくべ又花をあるさら作る
を百鳥ふ猶詩歌をへしきく

▲猫の子　猫かれの代ひさ乃猫し猫の
猫　ふて　山鳥乃鳴し猫の

▲蝶　乃ら家和ふ内出ぬらふ一つ乃ふこし

○山伏の鶯ふ付る乃ふ乃ふるとまられ鳥の鳴

▲鶯　ふて　乃れとる牛ふ二乃内し

乃れとる鶯ふ鶯の乃ふ乃ふ乃ふ

▲穂屋の薄　神屋の人歌にも薄を背負ふ
▲小社　社に杉　神紙の美く面こそ
▲かこちぶる　つし　綾乃宮
▲星　只つし　七夕に一つ　夕づく二つ吹こし
　ひる打し　ひる打に三星合るべうぞ
▲星　二月の日も三夜日　次月次は二夜
▲星うらふ　神祇し　星うらふ　色こく星
　ふるへし。　蟬うらふ　ふるこく　神祭　ふるべ
▲星うらふ　ふるこく　神祭　ふるべ
▲星と唱ふる　天の元と乃　燒乃　年の
　星と唱ふる　ふるくし　若し　秋かくし
▲星月歌　月の歌し　月乃字に又旬
　べし　星四花ふる　美かに　星月秋　歌し
　月乃字に又旬し　星乃光　月乃　花ふる
　光星ふく　月の　花ぶる　秋　云月の
　ふるて　秋ふる　ふる　和歌　所霧　上き
▲星乃林　秋ふる　花　秋ふる　星花ふる

▲星合　逢乃字に又旬し　秋の　歌也
　ふれば　星合に又旬し
▲星　二つ　星合　花れも　秋し
▲星　糸　星乃　絢　星　七夕のふし
▲星ふる旬　秋し　七夕
▲星乃　航　七夕乃　航し
▲星乃　佐　百　宮乃　ふし
▲ひ　ひ　ひ　物　ふる　ふる
　秋　旬　ひ　ひ　ふる　ふる　二も　三も　ふべ
　ふる　乃　秋し　歌乃　字し
▲千　ふし　ひ　千　沿　千　秋　ふる
　一つ　ふべ　ふる　千　日　又日　千
　ふる　旬　ふる　ふる　ふる　ふる
▲ひ　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる
　秋　乃　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる

○邊

▲邊　字　ふし　ふる　川　ふる　ふし
　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　二旬　川　ふる　二旬

▲色と　美色　着紙　元べかも（ムカシ）

▲色と　例　付句　歌　徳

既の歌色乃くろ　乃くろ　の

い一句ゆも世ゆ　ゆし。

▲金こ　金乃二句し　金　八金

九金一金い　折し　一　金　俗ハ

▲銭　（歴日訓）　あつと　へそ　と　云　ゆ　も　云　人

どゆ　ゆ　あろく。　色　そ　く　ゆ　二　五

べし。　年　ゆ　ある　日　数　へ　と　乃　数　し　へ　て

二　ゆ　ゆ　又　色　　年　ゆ　へ　と　ゆ　に　糸

と　色　ゆ　拾　つ　ど　　ゆ　へ　る　に　ゆ　又　句　と　き

▲猪　　物　智　ゆ　く　二　ゆ　ゆ　三　ゆ　ゆ　ゆ　角

一　ゆ　ハ　色　し　　猪　物　智　ゆ　く　と　と　く

▲猪　ゆ　ある　出　　松　出　ハ　人　に　猪　ゆ　出　ゆ　ゆ　拾　し

▲色　色　し　海　乃　と　と　し。　べ　と　候

日本紀　海　色　源　色　と　と　ゆ　ゆ

。何　ゆ　て　色　て　ゆ　ゆ　ゆ　ん　沖　の　ゆ　と　　ゆ　ゆ　ゆ

▲可　（ベキ）　ゆ　と　し　べ　し　　ゆ　ゆ　し

只今に可二句云しべ　色　と　と　と　二　句

。乃　と　色　ゆ　と　ゆ　と　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

。秋　の　ゆ　月　の　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　し

○ 宅

▲赤呂ろ　赤　国　ホ　ゆ　ゆ　の　ゆ　し　味　ゆ　ゆ　ゆ

。ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

▲ゆ　ゆ　ゆ　　ゆ　ゆ　ゆ　し　ゆ　ゆ　乃　ゆ　ゆ　ゆ

▲と　ゆ　ゆ　ゆ　　常　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　と　ゆ　ゆ　ゆ　し

ゆ　ゆ　と　ゆ　ゆ　乃　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

。ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

▲ゆ　ゆ　あり　ゆ　し

▲戸　ゆ　し　居　ホ　乃　戸　一　ゆ　ゆ　乃　戸　岩　戸

岩　の　戸　窟　乃　戸　民　乃　戸　引　金　ゆ　ゆ　し

居　ホ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

只　乃　戸　色　く　蔵　乃　戸　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　し　。　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　乃　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

▲戸ニ扉トビラ 板戸 蓋水板

▲戸ト 窓門マド 西ヒガシ 妻戸ツマド ハ文句シ

▲戸ざし 何是れ戸口ニ西ヒガシ 居れ ニ二句

ゑべし 須ハ居ル

▲戸ざし ニ 窓門マド 西ヒガシ 作法ニ文句ニ

ハ西ヒガシ 西ヒガシ 居ル 居ル べし。こ

▲戸ざし 戸ト ゑ 居ル 哭ノ戸 哭ノ戸

乃ち 須れも 居れ ニ二句し

▲戸ざし ゑく 扉ヒラキ と ゑ し 文句 ゑ べし 抵抗

▲戸ざし ニ ゑす 文句し 文句 と ゑ り

▲戸ヒラキ と あ ゑ ニ 板ハリ 付句 も 西ヒガシ

哭ノ戸 ニ 板乃 ハリ 付句 ゑ 西ヒガシ 戸口 と

刷ル と 書 板ニ ひ ゑ ゑ 二句 居 ゑ く ゑ

▲戸ヒラキ を 呼ブ 戸ヒラキ ゑ す ゑ と 文句 板ハリ ニ 居ル と

▲ど の て ん 二句し 湯ユ り ゑ れ ば し

▲ゑ ゑ く 動ウゴク 哭ノ ゑ れ ゑ し。ゑ 乃 ゑ く

ゑ し。海ウミ 乃 ゑ ニ ゑ ゑ。ゑ ゑ り 乃 ひ ゑ ゑ ど

ゑ ゑ く ゑ ゑ ゑ べ し

○天乃原 鳴雷ノ ハ 鳴 ハ 雷 ハ 鳴 ハ 雷 も ゑ ゑ 中 ゑ ゑ ゑ ゑ 乃 ゑ

▲鳥 ハ 雷 し 雷 ゑ 居 乃 ゑ 二 ツ 雷 乃 ゑ 二 ツ

小 ゑ 樹 ゑ ゑ 乃 ゑ 二 ツ 金 獣 と ゑ く 一 ツ

ゑ し ゑ し ゑ 居 れ も 板 ハリ し

○ゑ 乃 ゑ 三 百 文 ゑ 板 ハリ し

○小 ゑ ゑ く 付 ゑ 句

▲ゑ く 鳴 ハ 乃 ゑ。滝 乃 ゑ。板 乃 ゑ

ゑ ゑ ゑ 文句し 傍 ゑ 鶯 ハ ゑ と ゑ て。

文句し。湯ユ り ゑ れ ゑ く 雖 し。板 乃 ゑ ハ

雖 し。滝 乃 ゑ ハ ゑ し。居 の ゑ ゑ ゑ 文句 ゑ て し

居 別 乃 板 し。居 の ゑ ゑ ゑ 文句 ゑ て し

臭 ゑ ゑ ハ ゑ 乃 ゑ 板 目 し 弥 ゑ ゑ も か ゑ

▲ゑ ゑ 殺 ゑ く 西ヒガシ 板ハリ し 雖ハ ゑ ゑ

梦 ゑ 呼 ゑ ゑ 梦 乃 ゑ し 鳴 ハ も 文句 ゑ

○ゑ ゑ 梦 ゑ ゑ 乃 ゑ。居 ゑ 鳴 ゑ ゑ

鳴 ゑ て も こ ゑ 西ヒガシ 板ハリ し 文句 ゑ し

○曙 乃 ゑ ゑ 梦 し。雖 ゑ ゑ ゑ く 付

ゑ ゑ 梦 ゑ ゑ 板 ハリ べ し。付 と 云 ゑ

[illegible]

▲鳥兎葉　鳥兎の葉に人の麻呂の眼の乃見に[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　人乃麻呂の眼
[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥兎葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥乃葉　[illegible]
[illegible]

▲鳥居　鳥兎葉屋居の家の[illegible]
▲鳥葉　[illegible]

▲板矢傳紙第五　多ハ木ハ小枝乃多ニ
付テ枝の木と多ハ木ハ枝ハ多くそとゝし　付図
。つ是多紙人の色と多ハ木ハ金元雑ハ木ハ多と多く付テ多紙
▲多ハ木ハ出り紙　多ニ又白ハ月ニ面　雲ハ元ハ多と多く付テ多紙
▲多ハ根ニ　多ニ又白　田ニ七白
▲多ハ根ハ田ニ　多ニ又白　田ニ七白
▲多ハ多ニ　田ハ雲　元ハ常ハ
山ハ元ハ多ハ多ハ雲ハ山ハ元ハ山ハ元ハ
▲ちりく　結く　お白ハ元ハ
附ハ元ハ乃ハ元ハ付ハ元ハ元ハ元ハ元ハ
又ハ元ハ多乃多ニ二白ハ元ハ　月ハ元ハ元の字
ハ元ハ根ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ
。寄ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ
元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ
元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ
元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ
元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ
元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ

元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ

此年ヒ宮殿ニ又匂し　摂津国住吉郡

▲壱山　尾上　山乃端　雲の折し

岑ニ　高峯　嶽　雲の折し

▲壱山眉　壱山乃ハ

人の貌の如くなり　文若貌の如くなり

▲壱ゑまり　鶴の羽乃ゑまり　滝

▲壱滝　鶴の羽　流れ

▲壱ゑ　撓の字　流れ　むし　文壱

▲壱ゑる　ゑし　ゑ　白髪

▲十の字　打寄く　寄し　九抜

▲十くゝり乃松　百年　二抱　十四　三千年

○松の葉乃緑も黒ずみ　千くゝりとて流れの

○義流や十くゝり流れの松の色　宗祇

▲斜　尺義し　▲答　非　祇り

▲豊乃明　豊し　義し　抜ど明の字ニ豊

十一月中乃辰日　十一月中の卯日　常乃節去い及ん辰日し

十一月中乃辰日し　低ニ新嘗去い

昆い辰　大嘗　云乃明い辰日と総紀乃節去と

云　巳日　基乃節去と云ふし

○孫人の日　孫人の日の字ハ明ぞ　孫

▲壱乃山　大嘗　云乃おゝ乃山　撓し

▲壱年の　壱年　壱とゝめ　壱年し

ゆゝとゝむ　壱乃ゑい　壱年

壱国　壱帯　壱ゝ

▲壱坂乃　月出し　▲壱坂乃　月の入

▲壱ゐ　山　大和国　葛城

ゐゑ低　壱ゐ　山ゐゑ

山ゐし　海　壱ゐ　山ゐ　山ゐ

▲壱的野　伊勢国乃名所し

▲とゞ入　間ニ　ふ屋　昊ゝ三百　鈴ニ

絶し　九入　白髪　絶し　紫ゐ

絶し　紫ゐ　絶し

▲居　疾白髪　壱ゝ　壱ゝ

壱ゐ　壱ゝ　壱ゝ

息災乃為。毒氣乃為。毒氣乃為。一家乃男乃子乃一所乃所乃所乃

▲外山　只多産誓ハ乃ち
　　深くぬ弱山し　孤山暁月と云題
　　也く　長家題

○深くぬ外山の産ハ新元ぞか木の葉月ハ海とき

▲答産　飛ぶ多ぬ山　産所ニ式句　十句の内
　　ふ乃ぬ　ぞ

▲答涙　居所ニ二句　答涙　茅涙の涙
　　百歌中も一し

▲油相　飛ぶ涙ハ　ぬ涙ハ
　　ぬ乃ぬ小ぬ乃ぬ

▲油紅　結し　姫涙の字ニ式句
　　紅と留ぬて打　紅て又ぬ紅ハ　見ぬ
　　油乃字留の字　留の字　共に面しとき

▲留の字　打掛し

▲と名て　ト云字　二行ぬ乃べ　ぬて
　　紅とめて乃結し　紅の字し　留と
　　紅ニ乃とめて結　字ニ乃とめて　紅とめてハりとめて云詞し

▲問の字　結ふ中付　見ぬ　ニ　共ハ式句とき

▲産　ト云字　名ニ一出ニ一　以上二てし

▲産火　産ハ乃ニ姫と産の字　産ハ乃
　　ぬべ〜ぬ　解火の字ハ　出ま　産似の字ハ始ル

▲産火聖　去月産を不あり

▲産火の聖　人偏し　産ハし　火ニ面と産

▲産ふ　産ハ乃ふ　打ふも同じ

▲とぶさと　打乃ま　と切し　紅ハこ　ま
　　ま切く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
　　とけ乃　産と名　ぬ　ま　ぬ　ま　ぬ　ま　ぬ　ま

○栗ま足　栗ま足　栗ま足　栗ま足　栗ま足　栗ま足　栗ま足　栗ま足

▲とふ乃ち　奥列十府ハ編ち　薦

▲とふ乃ち　薦

▲とふ〜かう〜　とふ〜　とふ〜　とふ〜

▲床　て し　産ハ乃ニ姫ど　ゆりハ
　　打し　産ハ乃ニ姫ど　ゆりハ　ゆりハ
　　べ〜とく　床乃一字と　産ハし
　　此所ニ綱代の床　綱乃床　新の床
　　乃内出ぢハ打留て　一ハべ〜　以上二てし

▲床乃芯　多ハ乃ハ　但し　ハ

▲所と云字 ぼし 打し 紙布 立布 ど二
句し。余布いろ遠 昊ナニ 所ニ 麻の紙
一布い面し 低し 之所も 面所 打つ 心 流
▲所せば 所の字 関乃字ホニ 打し
低し所せば 狭い所せば 狭し 枝の字
▲常夜 夜乃字ニ又句 古世ニ面し
狭みし 常夜と 藤ホ 漬 数と 藤ふ 新
○巻ぞ 巻ぞ べ こ ぞ 巻 巻 ち 巻 ち 巻 巻 巻

數ゆく和紙只乃七十八十号。へ斉のミ
そ一ゆ。ゆどいら爲し

▲年ニきそうーうゞず　今自身四
。とーとふも蕎狂氏発　と云句ニ
当ふちく和れるゆ初めて蕎と云
▲年とくく　美い本く　同志し
▲年の流　只年と云までし　水きとい云　花ことばし
▲年木ろる　冬し　木の字清てゆむべ
▲年乃ゝ　年毎とゝるゆし　やうーのそ
とゆるいゆよく年毎し　花ぬ云年の始ニ云　流ハ不可見とし
▲年月ト云ニ　乃的付て　ハ西若　陽てハ二句し
▲年の四の云　哥ニハ書し　是哥ニハ冬し
▲年乃流り　七夕乃冬し　水武七夕のまゆそ　又七夕句
▲年雲ト云ニ　雲ちゝさ　雲乃ゝ
冬ゝ西く　ゞど皆同冬し　雲と紛い西若
▲年猿茅　小麦し▲ゝ　花ハ小麦くの
▲年ゝり　猿樹の花矢年ゝ　てゆ
▲書　夫木　書ゆゆゆいゆ柳ゆへ書て
ゆゝゝれゝりゆ書とまれす　仲西

▲鵜　只一　鵜乃竹一　鵜乃竹一　鵜乃竹一　鵜式
ゆ上ゝゝし杉ゆりく文句陽べ
▲竹　夫ハ杉し夫ゆ乃句し　瓶夫蕾ハ
い西し　乃乃竹い花　ゆ　嘆ハ　法の竹
只仏乃ゆゝ　ゝと云ゆ　法乃乃の
竹ゝと云しと品ゆ云り
▲交一　人偏しゆ月書花・舟の人
偏ゆしゆ交ニ一ゆ上ニてし杉ゆし其ゝ交
花ゝ交い人偏ニ嘆ゝ交くゆ交・水句よし
同じ月乃交。花乃交ゝゝとられゆ句偏人偏
▲交ニ　偏ゆ西ゝ嘆べ　偏ゆ二句し
▲交ニ　其乃ゆゆ　ゆ花
▲交ふゝ　ゆゝ其ゝ　ゆ二句し　但ニ　嘆人偏ニ
▲交清書　人偏乃交　清小嘆ゝ。書のゆ
偏くゝゝゝゝゝ　ゝゆ書し　書の交
。偏ゆく交清書ゝゝゆ西の嘆ゝ　書ゝ嘆し
▲交乃ゝゆゆ　流の交ゆ　流乃ゝ花ゝゆゆ
万　。まゝゝゝゝ交乃流の魅ゝゆ　ゆゆもゆゝん嘆ゝゝゝ

▲[illegible]ふ

▲[illegible]の字

[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]射

▲[illegible]

▲[illegible]

産衣 巻二

○和

▲[illegible]

▲[illegible]の字

▲[illegible]振

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

産衣 巻二 終

利根川図書館蔵

▲紀のなかし　乃都し　天地の文句し　玉鉾　巻　投打

▲路ト路　日な　文句し　九打り　三絶句　皆二句し

▲路ト道　又道ト路　文句或ハ二句

先ツ　紀伊乃路と紀伊乃道と二句乃次第とかてわ

以て文句と二句乃次第とかてわ

○聖路　山路　乃伊　紀伊　紀乃ハ紀伊　紀伊ハ紀伊　日な　文句し

○聖乃道　山乃道　乃伊　紀伊　紀伊ハ　奇めの乃文乃乃ハ

紀乃伊し　山乃乃　日な　文句し

○紀伊の路こ　紀伊乃乃ハ文句し

○紀伊の路こ　紀伊の乃ハ二句し

○紀伊乃道こ　紀伊乃路ハ文句し

○紀伊乃道こ　紀伊の路ハ二句し

紀伊ハ　編路　無路　久米路　無路　路　紀伊

無路　波路　久米路　無路　ハ路　紀伊

雲路　天路　雲路　別路　路ハ路　紀伊

紀伊乃乃ハ乃乃のべ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ

紀伊乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ乃乃ハ

路こ　一句　春路　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路

路乃　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路　路

▲磨　一し　以ハ文句ハ　磨乃ハ文句し

磨　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅

ひとり乃山色　乃　乃　乃　乃　乃　乃　乃　乃　乃　乃　乃　乃　乃

見わこ　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅　茅

○春よりいらくた一ハ　春の白雲かるみとなと

▲春　出　又春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春

しら乃山も　春乃春ひとり　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春

○春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春

▲春　もとへ　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春

▲春　のな　拾　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春

春ふ　春乃ちく　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春

し　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春

春ふ　春乃　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春　春

○花は萩に宗は萩いはゆるかれど
宗旨し　○花乃萩に梅桜紅葉の萩
ハ種物にて初しまのくちゆくく
あるこハ二旨し　孤流

▲萩花　ふるく萩ふるべし
▲萩とは　ふるく萩と物ふる花ふるべし
ハ皆秋し　薄萩　紅葉ちるかもしてれ
ても只も秋し　紅葉ちるかもしてれ
もうかちるハ又ハ花れハ秋し
▲萩紅葉　ふるく木乃もと萩ハ花れ
只木ハ花ハ花ハ　萩乃葉ハ又ふるべし
▲萩ちるれ　萩ちるれんと云ふ花まぎれ
○梅花萩ちるれ　紅葉ちるれ秋
▲遊花　ふるく乃ハ初し　但し萩ちるれ秋
ちるれ乃ハ初し　▲ちるれ　萩ちるれ
萩　新式旨　ちるれ　ちるれ
ハ皆二旨とし
▲ちるれ　萩ちるれ　但し萩
合ちるれ　▲ちるれ　紅葉ハ初し
▲をつく　付乃字付ちるれ一切ハ花
但ちるつくハ二旨　花べし
▲をつ場　所ふるく而萩乃宮殿
をあ場ふるし
▲文代　世を書てもあ若ふるべ
世ハ又旨花し
○文年號ハ花乃年　花旨ふ
▲和代　花ちるし
○京ハ八百年ハ郷　花ちるし
▲文居ハ　さ夜くふ居し
▲茅乃海　ふるし　流紙乃ぶし
▲茅原　茅乃海　流茅生山自品
吳ハ　茅原ふるく茅乃海ふるべし
茅原ふるく流茅生ふるべしふる
▲和種　種乃式ハ花し　一書　和種
種ハ種物式ハ花し
さ夜くふ乃ふ乃ふし花ちる。文種

▲帳　居所に用ひて帳の外ばりの心なり　かく

例ぞり衣　新みの乃酒の名　紫の乃酒　紫の乃酒の名　紫の乃酒の名　紫の乃酒の名　紫の乃酒の名

▲ちまきこ　紫の乃酒の名　紫の乃酒の名　紫の乃酒の名　紫の乃酒の名　紫の乃酒の名

▲菖蒲の根　菖蒲の乃酒　菖蒲の乃酒　菖蒲の乃酒　菖蒲の乃酒　菖蒲の乃酒

▲菖蒲の乃酒　菖蒲の乃酒　菖蒲の乃酒　菖蒲の乃酒　菖蒲の乃酒　菖蒲の乃酒

▲乳ぞうれむくひ　乳ぞうれむくひ　乳ぞうれむくひ　乳ぞうれむくひ　乳ぞうれむくひ

▲乳ぞうれむくひ　居所に二句　酒乃乳里酒乃

▲乳ぞうれむくひ　乳ぞうれむくひ　乳ぞうれむくひ　乳ぞうれむくひ　乳ぞうれむくひ

壬三
○産見のまれく絶打とそを発れ海水流れ引
▲弓引乃石　弓人狩りして引ばれ大石し
○我意ハ弓引乃石を七ツ貫て也てを祈の乃図

○ 刀

▲つま取り　二百ちし　つまりこまり
鞘わかく短いを　実か　つま取りこ
多れ鞘りくすくすくすり出ふ
宣の鞘ちとしたをしたくあるを
まとしとく留袖のわれしとく
▲つま取りこ　鍔あ短ちるた云鍔れ
たタ　鍔かくのかくのかもそるとい
ちちちねるあ短し　実か流
▲緒乃ちちへ　秋し　琴かれ調るし
呂れちちへいちし一寸こ　緒ハ秋をし
○緒れ琴ち琴乃調ちる乃流ぬし　ちちい
月ヒ文乃秋風れ中云　紹巴
▲隙付乃ち　正月二百に指鼓哭白鳥ふ

年中
○鞘れ琴れ琴れ琴れ琴れ琴れ琴れ琴れ琴れ琴
▲鞘同　ちれ鞘れ琴れ琴れ琴れ琴れ琴れ琴れ琴
自鞘紋文かどれ時文ちふ書し　古文こも
▲鞘鍔　鍔し一名ぐたしこ云藤袴
藤し級ふハちんどうとき　藤袴ハ
古今
○鞘れ紋鞘ちちるちれ鞘ちちるれ　名
▲鞘ちは　ま本　時ふれ　八大ちちち

半乃ぬ二句し不乃ぬし如乃んぬい
付ても今年くしず打合ふい強し
▲ぬ　沼　沼とをし隔れぬくを隔沼し
▲蘇　こし　人倫こ一つ又多蘇茅乃ろこ
一ぬ三こし　ぬ今こ叩い二句　新ろも二句
紬とくこくくいろ　しず
長寿と蘇こ蘇国眠　共こ面しくをし
▲ぬの玉　義とをし　蘇昔とをし　蘇昔年
○ぬの玉ふ茅ろ人と感て別ぬの蘇茅ろ年も
○稲かこぬの玉ろ　義教　心数
○風の孫よ夕義紬と始りい　系紙
只新ろ共茅の巻ろ　共ぬるくを
▲ぬくこて　又ぬ乃ろ一ぬ上二こし
そ乃ぬふ面ろ紬　ぬあろこ二句し
▲ぬろ紬　測れふぬしい洞ふ二句し
情くい国ふぬを洞ろへし
▲ぬのぬの人　ぬの記人し　一枕こそがぬれろへと
▲ぬのぬの為　水乃解ころを乃ぬし

○長年に古果あろこう涙こ元に二句紬へ
ふ　ぬろとく　二句
▲ぬろとぬれとをてふ　ぬれとくも二句
ぬろくぬれも二句し　ぬれとくも二句し
ぬ二つ乃ふぬ茅に背茅ふ二句し
ぬんいぬろ　ぬれ長ふふ紬。○長年と
ぬろとくい二句し　ぬろこぬれい紬句
紬し狐と此乃新しとを
▲ぬんぬ乃　こし句乃中を茅い面し
三字句しぬるぬ　ぬれいぬんこふ紬
○長年と　ぬんぬ乃こぬろこ乃こ乃こ
ぬんこぬろし　藤とくも面し
ぬんぬ乃面と紬れ新しとを
▲ぬるに　ゆぐんぬろし
▲白脱　木　家集　紬れ紬紬乃紬へ元紬せい　紬西
▲顔　似神と元　紬れ紬紬乃紬へ元紬せい　紬西
似一句ふ紬べ面新く毎ひこへをべし
○紬面に元ひこへをを元紬乃ろ紬ふ新ろくと
似奇新ろ乃ふ人と乃ふい大ち乃ふ人あり

[illegible]

▲ぬりり　乃乃ちるく見乃入るし

○[illegible]

▲ぬれ衣　衣ぬし　服ふ不語し

[illegible]

人乃[illegible]

けられあへ[illegible]

○脱[illegible]

[illegible]

○[illegible]

▲ぬれぬれ山　濡れて[illegible]山めるし

▲苔　雑し　苔草と云

○[illegible]

▲布　て　布ぬさく[illegible]

布引乃滝いろへ　一布曝　此衣[illegible]

▲ぬくめ者　[illegible]

[illegible]

▲沼　只一[illegible]と一つは上ニて　○又沼と只

ぬと計もあり[illegible]

▲ぬけ出さる　紙とし出さるし

▲縫　ぬ[illegible]

▲幣　[illegible]　茶[illegible]こわし

▲ぬさ　[illegible]　[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

▲脱ぬ[illegible]

▲ぬさ[illegible]

▲ぬさて　一[illegible]

○[illegible]

▲ぬさて　[illegible]

ぬりもの　上乃句ふせぬるもし　ぬり

ぬりもの　てし　人物ふ姫どもあるべし人物し

○留

▲ひろき　敷廣し　つ条乃ひろきもし

▲ろ　ぬり　二句ぬりてし　何是も一つ条

乃ぬり回ふ　○実ハ二ハ　ぬる

▲ぬりもの乃色　ぬるべけれ乃色し　もの乃色ふ

▲ぬり　嘆乃ぬり　ぬるくまり

○実ハ　弦之抜ふ色ぬりもの

▲ぬり乃者　ぬるべけれ乃物者し

▲ぬり　二句ぬりてし

▲ぬりん　ぬりんとぬるべくかぬる故ふ

三条ふかゆく面と強く玄仮面し

一句ぬりし　ぬりんぬりんぬりん

ぬりんぬりんぬりんぬりん　これ乃ふ乃

こ条乃ゆくりふ上乃ぬりん面

ぬりんし　化粧し

○遠

▲とおり　てし　遠幅に姫ど

▲とおく　大方し　入あしく　遠く

▲横横山　横列乃ふ乃山乃ふるし

▲とぐ山　採擢し　二字共めづらしきよめ詞

▲鬼　ふ句こて

▲とんやしい　追儺　十二月晦日の夜のるし

▲鬼のまもりしな　いのかが陸しく指を踏きくし鬼をうちこんて

▲鬼のまもりの者の　鬼乾　乃るもし

▲とがのけ　大方のけてくうくしぬかし

▲とがのけ　ぬかのけ　てまのやうしぬかうこのしきんず

▲とがの田　酒田　天保の時田れ弁の

▲とろろ　雑しいとろろ　はやりまし　藤し

▲とろろ　勝者し

▲書俵　て　▲書俵て　書二句し　俵て

▲書俵　書俵　書俵　

▲小やひ 小止 小ニ又白 小ニ白 小ニ結白 小ニ結白

▲小舟 ろくろくあ所をぶとられ部

▲小舟 小笹 ろくろくにちのさたハ二句し

▲小山田 ろくろく小田ゐべりくしば

▲小袖ニ 小松ニ白し 袖ニ面し 光雅し

○小袖と云ハ山ゑし 小袖は此歌ハ山ゑし 小袖ハ山ゑし

▲小倉 小泊瀬ニ 小ニ白し 雜合 雜泊瀬 此書し

小倉 小倉乃里 此ニ山ゑし ハ此

▲小壁 又一 倉ゑし二 ハ此ニ

○生田ハ小ゑし 栗栖乃小壁 小壁 小壁 しのだ川

しかげ乃小の小壁 小壁 乃小壁 ハ此乃 ゑ乃 ゑ乃 ゑ乃

ゑ乃 ゑ乃 ゑ乃 ゑ乃 ゑ乃 ゑ乃 ゑ乃 ゑ乃 ゑ乃 ゑ乃

▲小壁乃淀 もぐり川乃赤海小入江を云

▲小車ニ 乃ぢと付くゑ車とうゑる

乃ぢと付くゑ車とうゑる

乃車とハ小車とハ仙合ざろし

▲小車乃鄙 鄙乃車とハ雅と

▲小只夜 小只夜 小只夜 小只夜 小只夜 小只夜 小只夜 小只夜 小只夜 小只夜

物しり恋物夜とハ

夜とハ云ハ夫よりハ詠りゑる

夜とハ云ハ夫よりハ詠りゑる

夜とハ云ハ夫よりハ詠りゑる

夜とハ云ハ夫よりハ詠りゑる

夜とハ云ハ夫よりハ詠りゑる

夜とハ云ハ夫よりハ詠りゑる

夜とハ云ハ夫よりハ詠りゑる

夜とハ云ハ夫よりハ詠りゑる

夜とハ云ハ夫よりハ詠りゑる

夜とハ云ハ夫よりハ詠りゑる

紅葉 云乃 紅葉 乃人の 紅葉 乃人の 紅葉 乃人の 紅葉 乃人の 紅葉 乃人の 紅葉 乃人の 紅葉 乃人の 紅葉 乃人の 紅葉 乃人の

又山 乃 乃 又山 乃 乃 又山 乃 乃 又山 乃 乃 又山 乃 乃 又山 乃 乃 又山 乃 乃 又山 乃 乃 又山 乃 乃 又山 乃 乃

乃 乃

又 乃 乃 又 乃 乃 又 乃 乃 又 乃 乃 又 乃 乃 又 乃 乃 又 乃 乃 又 乃 乃 又 乃 乃 又 乃 乃 又 乃 乃 又 乃 乃

○ 乃

○ 乃

▲只一 名ゑし 山乃名 ハ此二句し 只ニ山ゑし乃 祈し

▲只のべ

只ゑしのハ聖乃名ハ山乃名ハ乃のべハ又句し

▲只乃やと 居ゑし ハ此 さて又ハ乃のし

▲只乃本 此聖 此聖 此聖 此聖 此聖 此聖 此聖 此聖 此聖 此聖

朱ゑく 雅付乃 此聖乃

朱ゑく 雅付乃 此聖乃

朱ゑく 雅付乃 此聖乃

朱ゑく 雅付乃 此聖乃

朱ゑく 雅付乃 此聖乃

朱ゑく 雅付乃 此聖乃

朱ゑく 雅付乃 此聖乃

朱ゑく 雅付乃 此聖乃

朱ゑく 雅付乃 此聖乃

又云 松竹の懸物なり 其上に尼打と云
又御 ことしなり 三尺紙なりの一つし
▲紀 紀龍紀御紀制紀飛女紀 ふるひより
▲そよまつげ 御こ御こさんし 源氏物
▲そざまつ 紙の袖 紙の袖なる 苦くるとも
紙の色をしたるなり 又袋なるとも
しくしるるい 紙もあり
抽紙 小袋なり
○古代紙の紙 紙
○長源と云 小丞木紙 紙
▲そざやり てし
▲小田尾当 田尾当 田尾当云。田尾当人し
▲それ 袋なる人し
▲産紀 産紀と云 抽紙て てし 但 三尺
▲産紀日 ふるく 紙紀日 紙
日永紀日 紙
但白紙 紙
▲産物

▲如 如 如

文を遣るに年と遣る面さるべし　孤狐
いづ[illegible]へ。[illegible]人を遣る用乃[illegible]遣
[illegible]拙者くこと[illegible]
[illegible]拙者べし。[illegible]

▲とてる、　とてるく　[illegible]
[illegible]遣乃[illegible]　拙者ら[illegible]
▲亜　のな　拙者ら[illegible]
乃亜ハこし[illegible]
み来乃亜て[illegible]
▲とられも　とられ来し　[illegible]
▲親に　る二旬し　[illegible]
▲とり[illegible]　拙者　生来と云　[illegible]の家二旬
▲遣　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲とさる　[illegible]　押
▲沖　只一　[illegible]

一沖中川　川乃[illegible]尾し大河[illegible]海小入
[illegible]
[illegible]沖中川乃[illegible]
[illegible]沖中川乃[illegible]
[illegible]乃[illegible]
▲[illegible]　一　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]拙者[illegible]
[illegible]拙者[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
[illegible]
▲とてる
▲とてる
▲とてる夫
▲とてへ来
▲とてまづき
[illegible]
[illegible]海乃[illegible]
[illegible]波[illegible]
[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]

▲俤　只一　又月花に一ふべし　あるべし　月花に乃字は
　も只乃四しの上にこそ　月花に乃字は
　二句しの文典に乃字は云
▲とりて　仙翁くこそし　おりしのたとくへ
▲とりと人　俤　交ふへ乃女房し
▲おりもちと　山乃ゆとの乃　俤これおくの
　おりもちとおりまぎ　帯ぬ月花と花と房と　ヨヒ　花れ村雨
　　日本紀

○和

▲わわ乃花　春乃字に脱と二句し　仙孔
　　春乃字に二句　春乃字　日本紀
　　又ふれくあるんとの乃字も日わおくあるんし
▲乃　の字　人俤に一　雄拍に一　雄拍に一　雄拍に一
　　人俤に一　生新に一　雄拍に一
▲乃に　都　新武に雄とく　雄拍
　いくく　脱とる花乃ふし　ふるとく
▲乃葉　春し　春に脱べし

▲乃葉　花紙し　▲乃葉　花紙し　張杉物　表紙屋の
　乃葉　春乃字　初乃字
　乃字　乃字　乃字　乃字
　乃字　乃字　乃字　乃字
　乃字　乃字　乃字　

名とのうず。只あるを多くごろうはいうれず
あるを多いあると法ぐず。兵あるを多くごろう
ちくも赤くし多し。しあるを小いあるうず
▲あるを多くこれを紙ぐ。紙を西てあるを西
▲あるを多くこれを付。多山小あるを多くし付う
人を強べからざるうし

▲あるを菌　多くし
▲あるを楓　多くし
▲あるを松　紙云不殺紙し　多くあるを松し多くこれ
▲あるを栗　多くし　松乃あるを緑は多くし
▲あるを水　多多くし　松は紙し　只は雑し
年中
多くを多くあるうあれ小を年の多くあるうん
▲あるを書　多くし　▲あるを餐　多くひけし
▲あるを能　多くし　多くし　只は多くし　さい能は紙し
▲あるを和歌　多くし　和歌は　多くし　只和歌の雑
▲紙表　多くを　多くを　人偏に紙ど年人の云
へを紙が紙ど用紙紙多くし

▲多くを紙　多くし山紙し人多くし
伝義大師紙山開基乃時れ山所を
▲多くを山　法敷山やうし
▲紙背る　紙まどを云　▲若妹み　紙書し
紙をを多乃をを多を吹乃を紙を紙を紙用
多くを多くを紙を多を多を紙沢の紙のをりを多を紙さ
或は紙見るは多紙不西で多の妹るは多紙多を云
▲多くを紙世を多る　和の多を多と　紙を紙の多を多
多紙乃多を多紙紙多紙紙多を多を多を多を多
▲紙紙を多を紙紙多を多を多を多を多を多
紙紙を多を多を多を多を多を多を多を多を多
▲別　の多　多に二ッ多し只は多白を
金乃多は二白　紙は面多し
▲別　に多を。多を多を多れば用多を紙紙し
紙多を多を多を多を多を多を多を多を多を多
や紙小紙を多を多を多を多を多を多を多を多
多を別を多を紙を多を多を多を多を多を多
乃多を。首に多を多を多を多を多を多を多

▲別に　こゝろなく　別に張の意あり　張の意のこゝろなくい　張の意の二句　張乃別に　張乃こゝろなくいハ面し　張のこゝろなくば別に　張乃こゝろなくも　張に同し　張の物ゝこゝろなくい二句　張の物ゝこゝろなくい面と　物ゝ張の張あり　張の意

▲別乃轉　難し　無文不回れ　張乃別乃轉　難し　無文不回れ　張乃別乃轉　難し　無文不回れ　張乃別乃轉　難し　無文不回れ

▲和田乃原　蒼海と云　田こゝ海と　田こゝ海と　田こゝ海と

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

八。折紙ひりぐん　とくし　拙判　ぐ　麁穂
ゆぐいこさ　みれ　ぐ　ぐ　ら　ゆ　れ　ぬ　ぬ　て
もとうとうと　繁乃ふ　ら　ら　ら　し　ぬ　の　ぬ　縄
ぬ　ゆ　く　も　あ　の　ら　ぬ　び　お　紙　も　ら　者　し
俗准し。ゆ　く　雅　ぬ　ら　ぬ　も　せ　ぬ　し
云白。。　ぬ　ぬ　ら　ま　ぬ　ま　ぬ　ま　乃　神　や　ゆ　ら　ん
と云白　ぬ　ぬ　ま　ま　ま

○ 加

▲朗 [illegible]

▲貝 生駒し 雑し うれせぶかさ
せぶかも 貝の 貝乃名あれば し。美なし
[illegible]

▲[illegible]紀 てし 四月[illegible]
[illegible]乃[illegible]乃[illegible]て 柳し[illegible]紀 [illegible]

▲川社 [illegible] 社 [illegible]
[illegible]

▲川橋 [illegible]乃川橋。[illegible]
山[illegible]

▲川橋 川[illegible] 川[illegible]
[illegible]

▲川[illegible] [illegible]

▲川[illegible]

▲川[illegible]

▲川つら [illegible]
[illegible]

▲川上 [illegible]
[illegible]

▲川門 [illegible]
[illegible]

▲川毎 [illegible]
[illegible]

▲川長 [illegible]

▲川[illegible] [illegible]

▲[illegible]の実 [illegible]
[illegible]

▲かなす　茄子　二句又式句とも云流あり　俗には二句語べしべしくみ句乃注に云

▲かハ帯り　二つしそどもすわ物合わせ　もの語　実ハ二かハりと云詞に成し歌

ゑハ二ゑ帯ハ二句ゑしゑ

▲革衣　かハゑ衣　○山路く行流ハ皮衣ゑ云られば歌ハ用も所ん

○衣ゑれど山ハ雪ゑと云ゑ　○衣ゑれど山ハ雪ゑと云ゑ

▲くハゑれ附　巴流雅二句附　歌の内ゑ雅ハ二句附　実ハ二句附　歌ゑ

方歌ゑしゑれハ雅と云雅乃附し雅

ゑれ附ハ俗附ゑし　○里ゑ花行乃水ゑとゑ　○里ゑく行乃ゑの雅とし

▲くろゑれ墨　羅漢墨と云　墨ゑ

▲鍾　つし　ゑ色ゑし　鍾乃附と水乃ゑし付

ゑハ鍾ハ帯ゑ　▲りハ附り　色く　ハ俗懸し　扇ハ俗懸の雅ゑ　ゑて扇ゑ

▲かハ　ト云句　二句ゑしのゑ　乃雅し　ゑくゑハ　ゑゑゑゑ　ゑハの

ゑ　ゑやゑと云ゑ　し　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

▲鞠　ト云句　実ハ二鞠　○実ハ二鞠　二句ゑしゑ　ゑ　ゑ

▲奥多　ゑ乃字ゑ　乃附ゑ

[illegible]

▲クハ花　英花し　杜の花乃花と也乃

[illegible]

▲ゆるさ一かつさ一ゆ上二てゝし又云ゆるさハ人倫
さに限ゆるさいゆ限又云ゆるさハ人倫
乃上し者雲ゆどゆてハゆ和合弱し
[illegible]

▲ゆるさかつさ　義こ滿しさ

ゆ屋ゆるさ風しと云ゆし

▲ゆるこ　別　猶と　[illegible]ハ二句　悪とくハ面し
[illegible]の不ニ者ゆるす　別て義
るゆゆどゆハ一切ゆ屋
▲ゆるこ　屋す二句し　ゆこ同ゞ

▲屋と　雲乃ゆるゆるゆどハ城の字し
雲吹ゆるとハゆ屋ゆ字し　城ニ　二句し
[illegible]

▲屋てぬ乃　英[illegible]乃別　表情く
[illegible]　賽　[illegible]し　[illegible]見日本紀

▲かつらまつり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲かつらり見る　顔し　ゆるゆ屋見るゆと目
[illegible]ゆ屋見るゆと二句し　別こゆ屋。英ゆこ
ゆるゆ屋見るゆと二句しかつりんとるく
[illegible]

▲相　[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲雲　[illegible]

▲雲ハぬり地ゆる板ゆ森ゆと雲と云り
又英と雲ゆとゆとし英ゆ雲ゆ時ゆゆゆゆ
[illegible]

▲雲ゆ白ゆ　居和こ地ス人英し　物縁面ゆの
話のゆゆし

▲門 戸一し　門一ゟくちあけ門も云し
。天平ニ門一ゟ出ニ家門と一門の事あり
法乃門ゟ出ニ一ゟ上ゟし但し家門と云
て色門一の内ゟ心ゟ云ゟ
▲門 。天平ニ居ゑし絵し法乃門い居ゑ
二面ゟ。家門と一門の事ゟ居ゑ
二面し。但し一門ゟ事ゟ和しゟ
▲門ニ 窓戸 戸ぐち。戸ぐちゟ
多何是色面し
▲門ニ 明石乃迦門 難波門 武門 門川門 長門
中良乃門 明石門 第面ゟ 門ニ面 出ニ二面
▲門出 首達と云 門ニ面 出ニ二面
居ゑニ二面 窓戸ゟ ニ面ゟ
▲門松 極面し ▲門出 中居所し 出門出し
▲門田
▲うちの衣 絵し 絵乃うちとれし
あ乃ゟ紅葉絵乃衣 文衣し文匂ひ
と乃ゟ衣 伏ゟ紅ゟ上に一ゟ重ゟ云

又 絵と云ゟ乃も一ゟ乃表の衣し衣
。絵乃ゟ紅ゟ紅ゟ紅ゟ紅ゟ乃衣の紅ゟ雜ゟ
▲かち八 絵ゟ服ゟ 絵人ゟ
。絵人の行乃水 絵ゟ 絵ゟと云ゟ紅ゟ大梅田
▲かちのし服 七夕絵し
▲かち 上云 ニしかち中と云し
▲かち弓
▲雁 秋ニ一 表ニ一 ニし 衣の色
ゟ衣ゟ秋乃色ゟ紅ゟ
。色物乃 色紅別 色紅ゟ 色ゟ紅ゟ
ハ表し 面に物乃 絵ゟ色 乃ゟ色ゟ紅
ゟ乃色 河面乃色 ゟ色 色ゟ紅ゟ
ゟ秋ゟし色金薄乃ゟ ゟし絵ゟ色ゟと
ハのゟ絵 絵ゟ絵ゟ重ゟ絵乃ゟ
秋し表ゟハ服ゟ。色人乃絵ゟ色
面に物乃ハ古文秋風雜ゟ。絵ゟ色し
寒ゟ面に物ゟく 面ゟ物ゟ紅ゟ
ハ物乃色ハゟ紅ゟ紅ゟ紅ゟ
ゟ物乃別ゟ秋時の服し 又云色物乃服乃

くろい釧しとと云白厂乃塊乃接ぎ目
と拙判ぎなり。美ガ二詰ロッて重ど
指い雲と黒い神し。孩ら雲と鮫ら詰る
雲し秋ル詰るれ姫どこし。関ら雲と
素人厂雲ぎと。厂金ル乃ぐく雲乃厂人
ぎべくらび。秋乃厂所ル一見ぐ記し。但し
武用ニ詰ロ厂素秋乃厂雲ル秋ル厂雲ぎべ記と云れ
び秋乃厂所ル一見ル素ぎも雲ぎて出秋
ル二ッ雲ぐ記とし
▲厂鳴　雲く燕乃塊ぐく指詰て雲ぎ
▲厂乃鐵　指乃雲ル詰し
▲厂金と云　雲ル一自ニ詰ぐ
○美ガ二厂金と云く雲ぎ一自ニ詰ぐ
らず鳴と云へ出ぐ雲と云く昌輝云と云く
▲偽し鍛乃厂も　厂ニ乃関し云れと
くロ雲ル鳴ル雲と鳴ぐくも厂ニ雲ぐ雲べ
くび。秋ル偽し　雲ぐ詰いび秋乃厂雲ル雲
雲も関ぐく

▲厂乃貴列ニ　あづくり川つ田づく
苔一切ル種　海野海藻と云
▲厂乃古宝　厂海ニ船ど宝ハ二の関し
▲厂乃玉象　種ル詰ル塊ぐ詰る
○天鳴と露ぐ乃東雲ル月と鳴て雲厂金　人名
○天鳴と厂鳴ル鳴ル乃東雲ル月と鳴て雲厂金
▲待　ぐと二一大雲し　交二一歌指く出ル
掛指　紀氏指乃ど又ぐべ。雲ぐ人乃ど
指と乃く皮孫し乃指ぐし乃ぐに指し
孫又云　ぐと乃指ぐ出く雲ぐ人乃一又云
雲指一ル雲指一歌指一ッ出ぐし
雲指く掛指紀氏指乃ど出乃ル指し
○美ガ二指と掛ル大雲し歌指
指し乃指。ぐり指ぐ乃ど人ぐ雲し指生
新。雲種又指二雑ぐ付ぐ人雲ぐし
石三乃指乃ル二紀氏指掛指乃ど出
出乃ぐべし指ル種し　日云　古ハ人乃出指
乃ぐく素ル雲人乃ぐり一ぐし。素乃ぐ

大鷲狩多故なし。常所名ふ狩名
て。去ふ鷲人名。去ふ狩名て名ふ
鷲人名なし。常所名狩乃字狩乃
字なし。狩乃内ニ名べしとなり

▲狩場　名ニ名く去乃狩いるべし。去名
名ふ。ふ鷲名狩。無名狩いるべし。去名
乃関い出ぐちなり

▲狩場　夏栄　秋の田刈ど侍る
狩名べ名ふべ名ば蔦も紅葉せり沈鳥し

▲狩場　庭ニ狩場名ど二自狩場
へしとなし。去名庭ニ名ど侍る。今名夏栄ニ

▲狩場　庭ハ式自名し。場とあしば庭ニ
狩場ニ庭ハ式自名し。場とあしば庭ニ
狩名めなりとなし。去名庭と庭乃字の
ふハ名場の字ニ出セり

▲狩場乃雑　雑名ふ名て名名
しふ名ニふ名し。狩場乃雑名て名名
し。夏栄ニ狩の狩名と侍て名名
も去ふ名ふ名名名

▲刈のま　苅し　かり所をそ　假枕　假枕

▲假枕　假枕七句し　假枕ハ　苅ていりこせ　こゝハ西ノ

假枕の紙乃　假枕ろく　假所ろべし　宿と

。夫女ニ　▲假枕ろく　假枕宿と

かるいふ　假枕宿と

▲かり屋　苅所屋　苅ノ屋　天ろ　別天

又神社乃別天　かりもの屋こゝ　袋の

▲備　のま　仏墓て　枕ろ　袋の

▲荊　のま　て　茅　苅し　袋こゝ

黍と稗ハ田と麦　蕎　苅ハ秋

麦蕎　苅ハ麦し　只刈ハ難し。夫女ニ

芋と刈ろ田と刈　ろく　茅刈ろべし

し田と刈　ろく　茅ろハ

主家ふと苦しと刈　ろて　茅ろろ

▲刈生花　ろし　苅ろ

▲刈萱乃実　山萱ニ姫と　ろ

▲稗　のま　ろし　麦ニ一ろ　ハ　ろ

ろろべし　孤孤　ハ　ろのかろ　個のま

出乃苅ろのかろ個の　ハ個のかろ　個のまもの人の苅ろのろ

茅乃刈ハ二ろ　ハ個ハ　個ハ

せろ　雛のま　ろ個ハ　個ハ　個ハ

夫女ハの紙し　一書　稗のま　茅と　ハ二

裏稗ハ紙し　聖山墨　ろ個ハ　ハ二

又云石茅稗ろハ何も　ろし　ろ茅ハ　稗ろ

▲稗　ニ墨乃かろ　ろも個ハ　ろ個ハ　雑し

人めれかろハ苅ろ　ろ個ハ　個し　風ハ苅ろ

▲稗ニ　竹箒ろ　ろ個ハ　個ハ　個ハ

まろ　ろし。假しろ　個ハ　個ハ

▲荊野　白海ろし　蕨虫ろと　結

ろハ紙し　稗個　ハ紙　。夫女ニ　茅

稗小茅ハ　ろ個ハ　ろ個ハ　結ろ紙し

▲蕨　て　ろ蕨ハ　ろ個ハ　ろ個ハ

と假ニろし　。蕨乃白　ろと　蕨と

ろろし　一白ハ　神假ろの　ろ個ハ

紙ろハ　ろ個ハ　個ハ　個ハ

乃かろ　ろ個ハ　個ハ　個ハ

▲鑄火　雜こ

▲薬ゆま　麻殆　四月ゑ人殺し

▲かぐらふ　熱の字こ又旬　天中二旬　くるる心

▲書　花捶初二つ人ゑ長殺り葉乃

ゆこ一ゆこ初殺ゑ二ゆ　二ハ初

くと。長殺乃書くと日殺　二ハ初

旬も二ゆく同おこ。捶初乃書と長殺

乃書と殺こ捶初乃書と長殺の旬

とハ同こ　旬二ゆ　やうハ初くゆ殺り

て八背面こ　花の書又旬い冬に書淡人

▲炭　捶ゑ　ゆこ　年の炭八花

いりひとぶきこ　旬　言べ。志賀こ　ゆ殺

▲ゑ　雲乃霞乃　二旬　志こ

▲ゲ　と殺りゲり　二旬　志　但し　殺。ぐハ

ゆ殺ゑ　ゆ殺ゑ　又　名

不乃松ゲ殺ゆ殺　松の葉ゆ　ゆ　梅ゲ

殺ハ　ゆ殺。天中　炭ゆ　乃ゲ　ひもゲの日こ

▲かゆこ　一　糸　一ゆ　ゆこ　ゆこ

殺りゆこ　二旬こ

▲方　の字日字　旬　志こ　方　方

て　肝方　肝　ゆこ　方　方

但し　旬　天　ゆ　方　方

方こ　肝ハ　ゆ殺　付こ　方こ　肝こ　ゆこ

殺こ　ゆ殺　ゆ殺　ゆ殺　ゆ殺

▲肝　の字日字　殺こ　肝　肝

肝　殺　殺　殺　肝　肝

ゆ殺　殺　殺　二旬　肝　肝

▲かゆこ　面　殺　一こ　殺　肝　殺　二旬こ

方の字ゆ殺　但　殺　肝　殺　二旬こ

せゆこ　殺ハ　肝ト　肝ト　殺こ　方ト　旬こ

▲肝　方　又　肝　乃　肝　方

かぐこ　肝の字ゆ殺　乃　肝　方

殺ハ　肝　二旬　殺　肝　方こ

▲ゆこ　人　殺人　殺　殺乃人　殺

。ゆこ　人　ゆこ　殺ハ　殺　殺乃

神し　早苗　儀の字を　くろへた　くろぐき
又　斤分ト　斤枝ト　後ル所　初所ハ斤定
ほの所ハ斤枝

○夜と秋と沼の水を　ちゝ斤分　ちゝ斤枝　風や吹らん
○桜の花ハ斤枝　夜と秋の沼の水　紫花生ぜ色　稲こぎ

▲方言　又　夜　夜と去　秋ふこめしび

鮭し　方言　又旬し

▲儀　のま　つし　多　斤　船　花ニ　旬し

▲斤　しく　ト云ハ　岩　夜　神　岩せと

しくとつぐけく　秋ふ吹し

▲くくく　こぬる　吹　緑　さふ若

▲くくくろ神かぐ　紅ふ　旅ふ　吹ど

▲かさまけぬ　斤　枝ト去　万葉ニタクさ

まけ　斤　枝　夜　くさまけぬ　後り

ふい若くくず　花　ふけ　る神乃

ふい中とかれ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ふい　ふ

出くれ　さん　し　ふ　ふ　ふ

[illegible]　[illegible]　[illegible]

けふかくれし

▲斤　月　七日　八日　月　月　月　紅色

○けふくろ　木　枝り　月　月　紅色

▲斤　系　ぬ　ふ　ふ　ぬ　系

○斤　色　ふ　ふ　り　紅　色　紅　色

▲斤　ふ　四　月　年　色　ふ　ふ

○ふ　節　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

▲くくくく　斤の字　ふ　ふ　紅　貴　嬉　云

唯　雄　ふ　ふ　ふ　て　ひ　ふ　ふ　嬉し

○家　月　中の　ふ　ふ　月　ふ

○かく　嬉　ふ　ふ　貴　歌　歌　ん　ふ　紙

▲斤　ふ　乃　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

居　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

▲斤　ふ　居　居　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

▲夜　野　ふ　斤　乃　家　付　て　ふ　若　し

○かく　月　ふ　紙　紙　せ　り　ふ　ふ　ふ

○愛　ば　た　も　紙　し　ふ　家　乃　貴　嬉　紙　紙

ぬ　氏　ば　れ　ば　斎　河　二　旬　紙　べ　ば　し　斤　ま

[illegible]書也へ[illegible]りとくとく

▲泻 一 名所 二一 四十二

泻とは[illegible]　ひつ[illegible]

[illegible]と[illegible]

▲傾 こし 月ひ日に一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲紀念 日本紀 信 日本紀 [illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲

雅乃形し。雅乃がてこかく云なてス
白きし。ろこげて云ぐて。雅こ云ふ。

▲かれや名り　一度こ云ふ

▲かをいろ　又如ろるし
又野ろ名い手ろ名ろ名ろ

▲うつくき　ろすい山ろ神月乃如し。富
士濃ろ月如ろ美城ろ如し　結城ハ飛鳥ろ
雅波ス

▲かつらく人　桂乃里くし名ろ名し名ろ
泊瀬ス名ろ名ろ名し

桂ハ月ろ名ろ名し
萩ハ秋ろ名ろ名し

▲桂乃時　秋ろ名ろ名し月乃名ろ名し月乃桂の

▲桂乃月　秋ろ名ろ名し月乃名ろ名し月乃桂の
花ろ如ろ

▲月乃中ニ桂一　桂男ろ一ハ如

桂川ろ名ろ名ろ

▲菱　てし　菱ろ名ろ名ろ菱ろ名ろ名ろ
乃形し名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ
又云菱乃形若ろ名ろ名し

▲月こ　月ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ
ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ

奥羽ハ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ名ろ

▲獐鹿じ　此獐鹿の肉小獐ひぐらしの如し　当時分二月し
但し鹿の肉小獐ひぐらしの如し
入れ物に獐鹿じ物の分細二月しとも
▲同なし　獐鹿らてい　獐鹿らしかの
けれ入れ物　獐鹿の分　獐鹿乃うち小獐鹿らく
鹿じくぐ子　獐鹿じとも
も喰獐し　獐鹿じ
▲獐鹿じ　獐鹿の肉し
けれ獐鹿乃　獐鹿乃
鹿離乃　獐鹿乃
獐鹿らて　獐鹿乃
獐

▲冠 カムリ

▲被 キル

▲かぶる

▲簾 カフコ

▲照射 トモレ

▲簾 レン

▲帽 カウル

▲帽子 カウシ

▲帽れぬ カウレ

▲帽る カウル

▲かぐらく

▲蓋 カヤ

▲蓋 カヤ

▲蓋ぶ カヤブ

▲蓋 カヤ

▲蓋蓋 カヤフタ

▲蓋遣 カヤリヒ

▲窓門 カヤト

▲横 カケシ

▲横 カケシ

▲横 カケシ

▲覓 カケヒ

▲愈の字　式面云こ　かづらふも式面こ

▲うげ紙ふ　雑し　面ろとられが美し

陽羅し　生れ二脇ば　出れてゆふとれが

晴雨しあるこ　生れ二脇ば　出れてゆふとれが

生れし。ぷんぐうひ　式面　雑ひ　秋し

ろふ斎ふもてそ面　雑ひ　秋し

晴雨　▲ろとてそ面　雑ひ　秋し

糸脇　▲雑れ　うとてそ面　雑ひ　秋し

水面　▲式ろ月ぷんぐうひ　式面　雑ひ　秋し

▲新陰　素　何ぞ　式ろ二面し

○日月人ふ　雑れ　初く　初い　素ろ　式ろ二面し

○山本　雑れ　初く　初い　陰ろ　式ろ

○弱ろ　式雑れ　新　式ろ　初い　素ろ

▲陰に　恒く　面れ　板二面　又　山ろ　雑の字

下ふ二面　実ろ　式ろ　板二面　又　山ろ　雑の字

山陰れ　表陰れ　表陰れ　本陰ろ　二面陰く

ろく　又　式ろ　下。陰ろ　陰ろ　下。

月ろ下ふ　実ろ　二面陰。実ろ　二面陰れ

式ろ　月ろ下ふ　実ろ　二面陰。実ろ　二面陰れ

表ろ　月ろ下ふ　実ろ　二面陰。実ろ　二面陰れ

表ろ　式ろ　陰ふ　陰ふ　陰し　陰ふ

▲陰ろ素表　雑初　二面　陰ろ素表

ろく陰ろ　表ろ　陰ろ　表ろ

▲陰ろれと　雑ろ　ちと尾し

▲かろふ　て　恒に面し　厳に二面し　闇し

▲かづれ　ろづれ　ろづれ　ろづれ

▲かろ　表ろ　陰ろ　面陰し　面陰し

○実ろ　二面　表ろ　陰ふ　表ろ　陰ふ　面陰

又云　ろ　二面　陰ふ　表ろ　表ろ　陰ふ　面陰

一ふ年面ろれが二面し　ろく　誣　謂し

▲かづ　ろ　ろ　二面し　○実ろ　一

かづ　陰ろ　ふ　ろ　陰ろ　陰ろ　二面し　但し

かろ　行ろ　ふ　ろ　陰ろ　ふ　ろ　陰ろ　ふ　ろ　陰

或いは振り分けるを高麗とも云ふ
たまものの句さくものゝ句とゝ
くつのけとゝ云ふ

▲かぢてゝ ト云ふ 面りんさ一出さる句し
花ごてゝ 袴ごてゝ 袴ごてゝ 見宝し
長し 歌くし 騎者の句の
▲かぢ乃綿 ま
▲かぢ乃紅葉 冠乃角猶し
▲笠 こ 表付らるゆ ふ笠 れ り れい
表付こ 笠丸山 面紅 義田義張 見の
▲笠丸山 こ笠 山形 ま べ 花こ笠 れ し
▲笠やどり 脚絆乃やどりし 絡小松ど
添しこみとし 或いは面やどりしと く
▲鶏 鶏ふも 鶏ふも 形ゝ べ
▲鶏丸指 ゆし 但し 生 小松ゝ
天乃川 ゝ
▲竜ゝ ト云ふ 面紅ゝ 形し
竜ゝ 表付こ 竜 絡て 一 竜ど 二句
▲竜字 ひゝく 形ゝ

▲個 二 居和乃神し 個こゝ 面し
個ゝ と二句 個生 個生こゝ云 ふ面し
○表付と 個生と 岩ゝ 一切 面 巖し
又曰 黄代個田ゝ 個乃個どゝ
居和と二句とゝ
▲個こ 面し 花こ面し
▲個こ 雛 霞 霞乃色 神個 個和れ
も形ゝ れば 乃日 出ゝ ふ二し 端雛
も雛乃ゝ し ▲個 宴 ゝ 句し
▲個こ 個ゝ 個乃 個乃 遠個乃 個
句ゝ ゝ 面 絡ゝ
▲個ゝ 個こ 面し 居和こ二句 乃ゝ
見ゝ 二句 し ゝ し。表付又 霞見
日本紀 紫乃 書 れ 個こ 句と 面
個ゝ ゝ 心云 ゝ
▲杜ゝ ゝ 表し ゝ 所の 郡 ゝ
○杜ゝ 乃表 表と ゝ 表 ゝ 百 家こ
ゝ ゝ ゝ ゝ 個 ゝ 表 ゝ

▲うぶくらい　俗語書或おぶに書のまま二百
ぬるれの冥ふかいわし。うきくらい行きくらい
と同意の語に書きたる
▲うぶされて　うぶくらしり　△かさ藍り　引こるし
。うぶされて去年死ぬの義ふ古里人といひしらんぶや
初産
。ぬるれ藍ぐらのふの奥れ行うぶ藍うた世中ぞう
▲胞衣　ト云ヒ　胞衣くらし
▲胞衣乃上れ山　蓮華とのうふ山胞衣みと
あるこゝろ　。天の川あるこゝ三姫ぐうれ例り　昔菓ハ蓮の清こゝろと云
▲乳　一　うぶく乳　乳の乳くし
▲乳ふさす乳　乳ふくし　乳のうぶくし
。ぶくれ乳ふ乳でと橘乳乳ふさ乳れと乳ふ乳ふ
▲産　一　産代　一　産れ産　一　ぶれと海ふ
産れ産ハ乳ハ上四し　産乃産　産不の
産れ産乃産。別産乃産　産の産とハ中元乃産号
産乃産。天乃産　天照皇産。れ
産乃産　産乃産。産乃産　産乃産。産乃産
産乃産。産乃産。産原乃産。産乃産
産乃産。産産ハ産産ハ産産ハ産産ハ産産
乃産産乃産産乃産産乃産産乃産産乃産産
産乃産産乃産産乃産産乃産産乃産産乃産
産乃産産乃産産乃産産乃産産乃産産乃産
▲産さびく　産ニ面と産産紙ふわらび
上久と書く只古代ふ久しさふし低し
白ニ産べし。産ふ二産紙こゝろ白ふう
バ只産乃如ふるべるべ只久しさと云
ふ産ハ産ふ面と産べし産産ハ産産産
▲又上久と書てさびしさ面産しさく
▲産さびてさ　産さびくもわらし
▲産ふるハ　産物と云産産し産紙と云
▲産楽　産くし産ふし産ニ面し
所ふ産産ニ産ど国産所ふ産産ハ十二月
▲産糸　ニ　産しさ　石面産

▲神楽乃名の義　神楽乃名の義　[illegible]

▲神乃松　神の義　[illegible]

▲神祭　[illegible]

▲神乃くるゝ　[illegible]

▲神水乃　[illegible]

▲神垣　[illegible]

▲神倉　[illegible]

▲神雷　[illegible]

▲神乃山　[illegible]

▲神乃月　[illegible]

▲神乃ぎ　[illegible]

▲神風　神の威風　[illegible]

▲神　[illegible]

▲神乃山　[illegible]

▲髮　[illegible]

▲髮乃　[illegible]

▲髮乃　[illegible]

▲上　[illegible]

▲上乃　[illegible]

しかくす 松に雪附て上の男乃也こゝろ
▲上の句に 梅と云ふ花乃中を代表
▲上の句 月乃影と云ふ中御名べく
▲梅の花 仏教に梅と云ふ花乃中の梅雪と云
祇乃こゝに梅と云ふ花乃こゝ
白花を西くし 又主殿の腦紀
▲喫し 乃て牛一頭乃ど物驚て
▲櫻乃花 乃し 考登まに流ど
○唱へ乃こゝ無花乃中の長乃どう花とこゝ無花
▲梅 雖し 黒紫ハ変し 薇薇
ハ秋し 黒乃梅と云も同乃 あゝ
梅ハ秋し。夏乃梅ハ 梅梅ハ 花も秋し
▲かゝ者に 櫻と云字 無落と云伝無て
付くハ 鳴べくうずうし
▲かゞの 乃名こし 無秋し 夏乃
京牧ハ秋ふ月乃しとく 絲の字り
○山門ふ花流くこゝ かゞの鳴くあの義合
▲うゝ 白髮し 雪に西し

▲陰紀に 陰乃名 志摩し
▲甲斐乃白芋 紙乃白芋 何也ら雪
成乃名乃れハ雪 紙乃白芋 何也ら雪
乃心こゝとし 他ハ他ハ 他べくしこゝ
又ハ甲斐乃紀と云 乃ふ 他伝
▲麻央 蚊央 生彩し 夏伝し
乃やこゝてこゝ乃こゝ。六面義新合
ふ後成ハ判 云田とる人山田乃麻ふ麻居
こゝく麻乃間ふ櫻とこゝ 蚊と乃
とこゝ麻と云 麻と云 蚊と乃
蛭乃蚊と云 ひと云ふ下ふ麻く
麻と蚊ハ麻 蚊ハ麻 蚊ハ麻
ハ一更こゝ又 麻ハ麻 蚊ハ麻
ふと注せり 伝成こ麻乃伝ふ叶ず
百 名高乃 乃高乃 乃ふ 百
○名歳乃 乃ふ 名歳乃 乃ふ
○飛乃 乃ふ 飛乃 乃ふ
○飛乃 乃ふ 飛乃 乃ふ
秋物
秋物
秋物乃 乃ふ 秋物乃 乃ふ

ぐくとあり奇し。右敦隆が和歌合集
ふ百番の歌合の二首の二首の奇なる
秋歌の中の箭ふへさるとし
▲変義の祭　変し　月中の雨乃月し非山乃
変し義変祭と云りれ此れのゆし
▲鴨　雑し　巣も因おあるこし
○夫かこ鴨ふ小塩ふさてこ和とく
▲鴨　あるこし　みてし海しふに
結くハ鴨し
▲麋　ふくと云　鹿し度と毛数峻
ふ用ゆ此鹿一角乃徒鹿乃雅と思れ
て秋ハ己乃角ゆ生る花乃枝乃ゆ乃と
中ふさゞりて暗るくし
▲花ふ枕定ゆ乃麋乃ものあれ花乃枝房乃ふ
▲風　のま　武句ふし　風八句の間武句
ふく　風ふ
▲風こ歌付風乃
▲風こ乃れ花ふくて武句し
乃雪乃ゆ二句し見ゆ武句とふく
▲風こ　摩風　二句　扇ハ句
▲風こ　雪と結びふる句ふて又風ふ波
ゆ結びふる句こ雪ゆ乃ふ雪
ふくく又山ふ風結びふるこ二ふべし
又句ふ乃家知れいし此准く　又風ふ
○風ふ蔵乃花乃花ふ宿ふく
てこ此句ふべし　結巴れこし
▲風ふ　ふて乃ふ乃乃ふ
ふべしこし
▲風ゆふ　ふこ此ど　▲風乃ふ乃ふ
此ふ乃ゆ乃ふ乃ふ
▲風乃雪　一　又風乃雪乃ふ　風何ふ
てこふべし
▲風乃吹　二　又風吹　風吹とふべし
▲風乃とふ　とふこ　雪乃とふ乃ゆ
まふ乃ふ二句乃ふ乃此一風ふ云
▲風とふ　風乃吹乃ふ乃ふ乃ふ風乃吹乃ふ

▲風吹とゝふハ　風乃吹やむを云

▲風　トゝ云　吹上れば須賀乃中臣

▲風乃こゑ　こゑて風乃音ひゝくを云

こゝし面白ゝ云べし　細源付べし

▲風乃ゝ　六月し　風物

▲風乃ゝ　風物作乃ゝ

ゝ波みゝくゝ乃ゝ　作乃ゝ

▲風まつり　花乃時か風を待ゝ

或ハ花乃時ゝ

▲麦風　秋風　精進

ハ雅ゝ

▲かせだ　麻ゝ云　麻乃角かせ　掛ゝ

ゝ

▲麦日　麦乃ゝ日　麦日ゝ

ゝ

▲麦日祭　ゝ　殖ゝ　麦畑

○麦畑ゝ　麦乃ゝ

▲麦日祭　二月上の申日し　麦し　秋祭

▲鳥　ゝし　鳥乃ゝ　吉田大原日枝三面皆春也

ゝ

▲霞　霞ゝ　二句　霞し　鳥ハ霞べ

ゝ

霞ゝ　二句　霞し　鳥ハ霞べ

ゝ

▲霞　

▲霞の綿の糸　紙九寸ホ面し又は巻物といふ

▲霞の綿の糸　紙九寸ホ面し又は巻物といふ

▲霞の若　表裏共し居あしき物也　山彩し

▲霞の実　紙一ホ彩　紙一ホ彩　紙一ホ彩　紙一ホ彩　紙一ホ彩　紙一ホ彩

▲霞の綿　あつき三紙と帯物し

▲霞の糸　表裏共しとろ〻し

▲霞の雑　居れ二面　霞ひ雑ちてても

霞の色ホ縁く居れ二面しとも抜れ

共ホ用しとと方心ちり

▲縁ろ　しゑ初　いれ縁ろ　ぷとあるぷ　ホ色く初ど

まゑし法り初二面　但し面二紙べし　紙ホ

霞ゑれ二面し

▲数　ト文字　初帯く　ロし初し　表ホ　数の字

二数二義　面し　紙紙　紙表ハ二面ゑまく

▲かとりろ方白　面八面の日ろ〻ず

産衣　第二終

産衣　第三　与右衛門孫

○与

▲万代乃松　素房乃中門乃中門三

笠山ホ万寿くと三巻ようの巻し

ろろろれホより大内ホ万寿と

。万代と三巻三れホそ万ホ天が下ろろ社ようし

▲還暦　世代第　中尺牡丹乃美名ろ

▲数　表橋　数　程云　数ろいろ年壮年

▲数　二老　表橋

乃沒年ろ。表ホ　数ろ二面絵べしと

紙式　紙面ホ絵ろ

任二紙面ホ絵ろ　再訳二紙面ホ絵ろ

ホく数ホどい老ホ同じ。又ホ年二三年の

人とも年乃数何程と云しられべくと

▲数　玉乃流付くもホ若　絵ホのホの

▲数　二　鏡　面二紙ろく付べし

▲数乃三十四年二年乃ゑ二面し只

乃数字七十八十四どゝ五拾二十とゝ
只乃とゝ十四〻四十とゝ
始しゆ乃字まハ
▲歌人　天子ハ元服乃時ゆ才一の
乾坤ハ酒まゝ
▲よわ元　一　よわとゝ云うゝとゝゝゝ
▲淀乃わゝ　あ為ハ淀乃わゝ
但し淀乃流わ乃ゝ
まゝゝ白かあゝ為こあるべし
▲淀乃川水　藤し　淀とゝ川乃川水ハ藤し又の川水ハ藤ハ
▲淀鯉　白鯉あゝ為ハ
▲淀野　あ為ハ淀野と釈度ハ
又あて付べ元し弁ゆもを
金葉
○高川淀野ハまゝ家ハ
▲淀ハ　あ乃ゝ
▲よゝとゝも　乗乃字世乃字ハ
但と書し　陳ハ帯住神ハ世の
▲よとてゝ乃ゝ　乗ゝ出乃歌し

又乗外出ハ書り　出乃流ハ弁ゆ
▲日乗ハ　常ハ友し
▲よわ　自し　二句ゝし　山ゝり
雲ゝゝ乃ゝゆ
始ゝど　又　倭乃字ゆ
▲家の　武白ゝし　同家　淀乃家
かどゝし　ふ元
波家乃ハ
▲家ゝと　為乃祖　方家て同家て
▲よゝべ乃あ　弁紙し　弁ゝ乃祖　清潔
い社乃あ飛ハ入ゝ乃あと云ゝし
後成家歌ゝい
元弘ハ乃ゝ
乃弁あ乃ゝ
乃ゝ家乃上弁ゝ
乃ゝ乃日ゝて
源じ元ゝ
みゝわとゝ

○こもりくのはつせのみぢをさかのぼりて
山神さびよるべのさまわかどられみらしもて
まろうとうの源しの所い神あるのみかも
まろうとうの伝れたるそれもまた緑のかみ見伝れば
いわ越おく伝べし 強かかる 住吉の所金清輔
○月紅葉ながれかさしかみ博やよるべのみにつくみりと
後撰判の詞れかみ。まるべのあくこの源じ
ふみくさのあしく撰らかも。古記所かみ見まび
伝ず遠社のたれおかみ海の面水どうぶた
渡の表物いまとまりんかどとうて立て
まるべのあ井に鬼ひく月いさえかみ
かとかんるすいぐとうの。低んのいく判
去のる細きがぐうとさくまとかと結び
どまるべのい社撰らの奇 花し仮ぞ新ぞ
○まるべ波分と社まく 傷のもこの者が新と歌みた
▲幣 ヘイ 打の 枝 シデ 神代 みそし 六月晦日名紙十二月 晦日幣打夜夜の枝ぐ
○月さく竹の紅葉 紅葉のもあ〜〜の幣打の神の打ものん
紅葉とこの神 祇官 シギクワン 十二月 晦日に祓 アラカ 撰

和とまりし幣打乃 コノリ 今下 シタ 枝と云ふ
わしくふへぬぐ入さく 夜 ヨル ちの 歩 ホ 見
い神代ちの結ちの神服の 装 ヨソホ 伝ふ
▲横川 ヨコカハ 流し あ色 ヨ 服と 山 ヤマ 新し 川 カハ 旬
横 ヨコ ニ 歌 カウ し 美 ビ ナ ニ 横 ヨコ ニ 西 ニシ し と ら
○横川と 夜 ヨル 川 カハ の 去 ヨ 幣 ヘイ 打 ウち。横
川乃あと 結 ムス ぶと云ふ 事の 抗 ケウ と云ふ く 結 ムス
波し 昌 孤 付 ツケ られ ら。 夜 ヨル 川 カハ の 夜 ヨル の 装 ヨソホ。
▲代 ヨ 二し 神代 ヨ 一 者 ハ 代 ヨ 二 ツ し
代 ヨ 神代 ヨ くい ら 色 大 者 乃 代 シロ し 又 聖 ヒジリ
乃代 ヨ もる べ く 代 ヨ 世 ヨ 代 ヨ 乃 ヨ 又 ヨ 代 ヨ も 二 ツ 紅
▲代 ヨ ニ 世 ヨ 代 ヨ ら 乃 又 ヨ 白 シロ ら し。 恵 メグミ と 伝 ツタ ぐ 代 ヨ。
5代。万代。皆代乃字あし。世代 ヨ 世 ヨ 坂 サカ ぐ
い世乃字なし。 紅代 ヨ 代 ヨ と 世 ヨ 又 ヨ 白 シロ ら ら 同 ヨ 乃 も
▲世 ヨ 代 ヨ 者 ハ 二 ツ 代 ヨ 義 ギ 二 一 年 世 ヨ 二 一
糸 ヨ 二 ツ 上 ウ 乃 ノ し。 世 ヨ は 云 ハ れ や。 世 ヨ の 治 ヨ り
て。あへく世乃 ノ 新 シン 世 ヨ の 新 シン 世 ヨ ぐ く 云 ハ 平 ヒラ 世 ヨ し
清 キヨ 世 ヨ 遠 ノガ く 世 ヨ ぐ い 主 ヌシ 情 ジヨウ し。 最 サイ 乃 ノ 世 ヨ 坂

乃世かども今は連歌し侍し。淺と結ぶ
只教し。何も也れ侍し。為世卿行れ
乃裏みかりされ乃べし引合てみし

▲世乃中に　中乃字二句目の字も二句
▲世捨人　素門と書乃字ハまがす
世捨人　捨こ句　人こ句　連歌乃世の
二の図し。

▲世と捨乃　ゑく素門かり　素門乃ゑし　捨乃字ハ
捨乃世乃ゑく素門又乃ゑし　捨乃字ハ
又句　但し当と捨乃ニハ打　人乃字こ句と
▲素門ハ　世とのれゑ人ハ素の表れ下
ゑも三字ハ字ハ　世とのれゑ人ハ素の表れ下
▲世と　秋こ九句　日と火こ句とゑ
ゑ一巴も孫も捨乃打也と
▲世乃さび　世乃ゑ乃世と世乃世乃ゑ
▲世ごろも　世乃ゑ乃世と世乃ゑ
▲世乃ゑ　世乃捨し　紛乃し
▲秋のま　月乃ゑ句ゑし　秋のまこ

月結ぶ二乃ゑ。愛　拙かど其拙ゑ乃
二付ぶゑし　お段ゑも表ゑの句ゑの
拙さ拙ゑ二つ付ぶ紀し　七句ゑ乃拙ゑ
▲秋のまこ　小秋乃中山句ゑ　ゑゑの中山と
▲秋こ　と青　句し
▲秋ま　二し　小秋一し　秋ま　浦ま二句
▲秋乃文ゑ　拙　秋乃ゑ　秋ま
神むつ　秋乃文ハ秋ま
ゑし　蛍乃ゑ乃こ拙ど　ゑし
▲秋乃ゑ　連和　ゑ句ゑ
▲秋乃ゑ。月乃ゑ　月乃ゑ
月乃ゑ乃ゑ　秋乃ゑ乃ハ
。夫ゑこ秋乃ゑ乃こ　秋乃ゑ乃ハ
▲秋と時　連秋ゑ乃ゑ　付句ゑと
▲秋こ　秋し　▲秋ゑ
。蓑秋ゑに秋乃ゑ乃ゑ　秋乃ゑ乃ハ
。秋と　孫元て　秋乃ゑ
▲秋紙結月　秋ゑ乃ゑこ拙ど　付ゑこ

夜方通ひくし但し書ハ付ハ
夜紙 乳味 夜ハ孫流。夜ハ二夜と猶置
歌清右三回し 仍て書二回とろ心ろ
▲夜乃次歌 ろり次乃歌し
▲夜乃綿 米買ハ乃ハ云ハし山の梅まし
▲夜乃内産 天ま夜乃内寝ハし
▲夜床 夜床寝ハ 只寝ハし
▲夜乃衣と久と 夜衣と西ーてぬれハ
ハのハと爰ハ乃ろとし 神と西と元ま
○完まへて ハしき附いらハ玉の夜ハ衣と西ーてぞ乃
○紙せ ぶ神西と元爰ハし流ハ乃ハ乃ハ
▲夜流乃月 ハ乃月しうぶくらし
▲夜降 ハくたイ ハくま夜乃文乃ろし ハのろこ程
▲夜居乃傍 夜猿指乃傍し変傍し
▲夜川 夜し 粉川しうひの河と
▲夜龍 夜乃別 又夜と居てあるし
○ぶくと夜龍乃夜ハ元ハ ハのハ乃ハ乃ハ乃ハ
▲よとも ハにを二回ろし ま夜まて

月よハのろくよハのどろ
まいしま ま云ハよハ
ハにくも回ハ
▲よろの よろ
ハ歌ハ歌ハ
付くハ
▲よ糸 二ハ 糸二一只て し 糸外ハ
▲よ糸月二乃ろ二回 又月ハ
月三乃ろ元字ハ
▲四乃結 四くハ
▲四乃松 又四種
乃附大使副使 乃元云首遣庭使
使乃ろくハ四使松ハ
○男乃松ハ
▲四乃ろろ 四民し 士農工商
▲ろりさろ 世ハ
世ハ元ハ種し
ま乃ろ

とゝろとゝろぐぬい世にあれねること云り

▲ゝゝゝく　東こゝろ乃ゝゝゝ仮乃字ニ三句極こゝゝ
東仮くゝゝ仮乃字ニ三句極こゝゝ

▲ゝゝゝ　美流ゝ　ゝゝゝ

い伝へ文ハ此ぶれい手次と云ぶ秘事し

▲横のま　打聞く二種あるべし

▲横こ　横さ度　邪　横さ　横さ　横さ

▲蕗（ヨモギフ）生ハ平人乃四囲し何も居所
小二而し生乃宅まゆく八悪（スク）居（ヲル）ハ二ヶ所
蕗生ハ生（ハヤ）乃所ハ山ろく清者（アリテフ）生ろべりゝ
▲同 蕗生（ヨモギフ） ろくろく清者生ろべりゝ
行れも古孤乃くんかれハし芽生（ハツ）ゆどれ
四月ハ多く一ろゝ花ハ咲（サク）仕ハ生れ
宅ハ多れハ出ハろべりゝ心をとそく
▲蕗生（ヨモギフ）乃宿 種ハ居所に植し
▲蕗（ヨモギフ）つ抽（ツ） 山ろく抽ハ花と種ハし 蕗（ヨモギフ）
生（セイ）ハ山（ヤマ）ろく抽も入べ紀と云（ヒ）ハし
○穿（ウガ）ハ多ハ抽（ツ）ハ紙（カミ）ハ蕗（ヨモギフ）ハ蛍（ホタル）花ふ
▲蕗（ヨモギフ）ハ湯（ユウ） 大四乃ろゝし
▲蕗ハ中乃出乃ハ 華（ハヤ）乃ろゝし
山ろく武ハ山ろ寄ハ
▲蕗乃花 一流車とろゝ紀と出ハ車の
四ハ抽ろとふと出ハ出でろゝ山ろの月
ハ抽ろ多ハ抽ハ花ハ咲ハ出ハ
▲ろ也ハ 俗（ヨセイ）ハ抽ハ紀し えんかもろ

▲ろすり 俗（ヨセイ）三月し仕一月神に伝ハ
所ハ三ろ抽ハ 俗し と注ス月ろ

○ 芍

▲たゝやもろ ろ抽ハ出ハ出ハろ也ろ四人ろ
○数隆（ヒロル）ふ乃里ハ出ハ
▲反数（クハヒス） 反ハ数ハ弱と部（ブ）乃宅ハ抽し或ハ
ろ也ハ抽ろ乃宅ハ抽し
▲反数ハ弱と部（ブ）乃宅ハ抽ハ多ハ
ろ也ハ抽ろ乃宅ハ抽し
▲たゝろ ろ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ
○抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ
○秋鉄の抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ
▲風流（タヒル）湯 陽（ヒ）ハ乃宅ハ
○ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ
▲岩（タニ） 只一（ヒ） 岩ハ抽ハ二ハし
▲岩ハ 山ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ抽ハ
▲岩乃戸 戸ハ抽ハ
▲岩乃花 只ハ抽ハ岩乃宅ハ抽ハ抽ハ

○裏の濃紫に染て紫の
▲ぐに　ぐにとは云まあし　に留りも形合も
▲ぐにとさん　二句絶ぐに見るかれ
仍て他ものかくいはるべ
▲懸　の字　一し　又は一度に二絶ぐべき
▲懸を絶これあるとも絶るべしとの
ふにてもあるべ　ふまうぐ　きこに添ふもの
しあまぐきあるとのはのかれ　ふ　きこに添あり
絶さいえのかし　懸　絶　又は　ムの字　未に注
たのりと云し　懸　絶
▲駄　一し　又たどくしと形整て一ぐ
▲橋　一　又氏　二ぐるべ　花　ふ絶
芭蕉橋は二句し　掛結ても
又は芭蕉橋と云て　ふ絶と云し
竹に芭蕉橋は拙句　拙句と注をも謂
▲畜　の字　二ぐ　ぐりるべ
▲畜水　水底　同形絶べ
又は形式に　ぐ　に此ぐ　ぐるの形の

畜水とも云句海邊形乃畜水は乃畜水は形
ぐ　ぐ　ぐ　

▲鶯　武蔵に六鶯　武蔵の鶯　鶯の鶯　鶯の鶯　鶯

▲[illegible]山　天武二年　[illegible]
山[illegible]し[illegible]の[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
[illegible]し小[illegible]し　[illegible]
[illegible]
[illegible]

晩も田植ゑ初め 植田二旬 わせいね植ゑ
又田しめて 曙 ひらいらぎ 昌蒲植ゑ
▲田に 苗 苗代 稲 稲刈 遅稲 晩稲
稲乃穂皆成旬植し。夫れ 苗は二旬と
より商 成旬しく 落穂しく
▲田に 浅 稲の中刈 稲刈て 稲し又
浅田は三旬 雑草 不実 大方 結し
▲田に 乃とろ 結ぶ 二もあり
▲田に 稲結 稲 二旬し 稲も二旬し
夫れ田に 稲二旬と云 商 成旬
▲田に 民 二旬と云 稲 穂 穂
▲田に 実 籠結くも 中もあり 植田 籠
と書ハ誤りし 文字 なるべし
かゝ水書 写 写 結ぶし 嘉穂 稲
▲田に 麻 乃 結ぶし 植田二旬し
麻 実 植田二旬し
▲田に 蓄田 清田 田 浦 田 田
大旬植し 又云 生田 田上 二旬し

夫れ田に生田 成旬し 居 稲 旬
稲 旬 しく
▲田 稲刈 田 稲
▲田 稲刈 稲 稲刈 又 刈 稲刈 稲刈 稲

居れば二句し　ちらしあるい　稗地に蒔く
▲田面の海苔　田の畦に海苔　秋に蒔く
見えぬ海の面張　田の畦に海苔　居所に生へ　二句
ちりのそくろ　苗代　頃も用ひしこと
▲田面に　外面　打ちし　脊面こと
▲田面の畦　田の畦に　七句　頃し
▲田に畦　落く　畦に　又句し　門田に　田おこ
▲田づら　田面　こと　七句　こと　こと　若し
▲田づら川　づら　川　づら　二句　べし　川
づら海づら　何れも　あるべし　何れ　一句
べし　田づら　べし
▲田草とり　なし　苅　稗
▲田苅　荒　稗　苅　苅　し　又　川　田
もらこと　重　源じ　ふ　こと　ちりぬれ　そも
稗地と　二句　べし
▲田ゴ　田長　人　稗し
▲田ゴの浦　田　又句し　田　鶏　去　隠河
　　　

二句。雅と俗とふ出れ業とをくの俗
式句松に二句しく金紙乃産に治定ふく
▲これ時　源し紙の色こをこれ
時とそれ時とそれ
▲たそそれ　雅二句　俗二句　名時分二句
約時分に　雅俗名人も俗　方紙に約時
分新式と雅し　紙しと共に俗んの
それいやのしく新式　接乃時　孤俗し
京をの赤紙名時分用あしし　名かと
雅俗　人俗に　俗人雅　式句紙南時二句とと
▲龍　名句に　てし　生まれ　龍と名色
龍と新式に　紙乃雅し　紙乃雅の色し
乃雅し　紙乃雅　松立　秋立　秋の
▲立の字　式句色し　松立　秋立　秋の
月折し又　音立　霧立　秋の紙く
乃月も立とし　折し
▲立し　新一切　色は琴乃弦を新
約乃雅　乃約　乃約　紙乃色し　雅に新の
二句し

▲立に　先達　二句　▲立に　楽　二句し
▲立と　さしもむ　二句　紙乃なもむに立乃ま
▲立所　不ぞ立字に面し立に　式句
壇とに式字面し　約時分雅に二句雅も立
約時分雅べし　と乃四立とと
▲立赤　雅乃立赤　一級乃前き二一
以上二の字し赤に級乃前き二一　結婚に
▲立田　立乃宮　田の字　立乃宮　田の字　立に式句し
夫婦に　立の字二句　田の字　式句　結田に
▲立田乃奥　立田川　山紙と雅と
▲立田祭　月四日し　色し
▲立田雅　秋し　祭に雅と　雅赤に
秋乃祭雅と　祭に雅と　雅赤に
小紙乃ぐて　赤乃立田雅に　乃赤と祭の
前にあり
○我慶七日入乃て立田雅慶式紙と用か慶ま
神中抄ふ立て　立乃前乃名し
▲立田雅　乃立て　立田入乃ぐ　雅し　雅赤
俗べし　名赤に二句し　秋し　雅に　赤立と

式三居ホトトギス 依保姫図あり 長歌 長歌三首 長歌の字 長歌二首 長歌 長歌 長歌

▲手訓乃詞　手訓し

○魚門の一ぴき落葉にうれ者をれ乃詞も云ふ

▲ふかうえ　書乃たの部し　右乃部を

▲うちよ　人痛し　うちよてを走

傷し　天中に親と打傷し

▲手向　手打部しとの

▲手向と云ふかごの　たとくに打

ととくもうし　元ていに打二つし

▲手向山　大和し又あり坂ふもとあり

▲手向乃神　名乃神し　伊和の神に　名組神

あり信ふ幸乃神　其云着逢　神し

▲手向草　松乃実名し　黄い色　花と

花ぶい絵ふあ絵ふあ和し　とく　名所　私　とし

○逢ふ　ふ和ふ　ふ向ふ　ふ向ふ　ふ向ふ　ふ向ふ　ふ向ふ　ふ向ふ　ふ向ふ　ふ向ふ　ふ向ふ　ふ向ふ

▲たむけ　併歌乃ふ　編也　心ふし

とふふふし　編　乃稿　ふふと

思ひ出しなく　云乃稿　ふふと

○田ひろふふ向ふ向ふ　秋のふ　花ん花

▲稿乃ふうん　此ふ者と　ふふ

とふふとふふん稿　ふふと

▲牡乃字　点と二　点二　ふ

此向ふふ　ふふ不可用地ふふ

▲花の書乃花　つぐひくい二旬も云ふ

此し日書ふふ

▲燒　乃字　二つし　ふ

燒　燒ふ　燒ふ　燒ふ　燒ふ　燒ふ　燒ふ　燒ふ　燒ふ　燒ふ　燒ふ

燒ふふふふ　燒二ふ稿ふふ

▲燒　ふく面張し面附稿張し

▲燒　影稿張し面附面張ふ心張ふ

▲燒　影　神乃書ふふ　火附　二旬

▲燒書乃附　ふと沙の点と飛ふふふ

火二旬附も用ふ　ふ　神の旬も飛点

此しふふ書い点し

▲燒書ふふく神乃書旬ふり

▲燒　火ふ　燒火ふふ　芦火藻燒

火附燒火し燒れも秋ふふ飛ど燒火

乃紙にてもよし。紙に肝玉の紙へ書込
▲臓腑 ぞうくわつ。臓腑は肝心の腑なり。猶臓腑は
しの項に詳に書なり。臓腑。○菊花乃字奥に臓腑
▲たらふ 臍と臍と意しるし此上こしし 此字奥
▲玉乃字 四しし 細玉和 嬉の字乃同 ○
四乃角し 紙ば臍玉と一 色いとこ玉とくらべ
衣乃玉い 法華乃玉はいとくし。細玉和の玉は
嬉の玉 嬉乃玉 ○嬉
美乃玉い玉 玉樓 玉柳 玉簾 玉簾 玉
玉しし此上四しし 又義と玉こしとろ
もろ玉乃紙 紙ばこれ紙 紙ばこれ紙 紙ば
▲玉乃字 あく玉乃年 面し 紙紙ハ
二白とし 玉乃字二ハ 又白とし ○美玉
あく玉乃年 又白し 紙乃字 紙乃字
玉乃紙 ○美玉
▲玉 紙乃字と 紙乃字と 玉乃
うろく玉 紙 二白 紙乃字と 玉乃
と紙乃 紙 又白し 玉 玉 紙 紙
紙 紙 又白し ▲紙 紙 二白し

▲玉 ○ 命乃字 紙乃字 紙 又白し 紙乃字
玉四の角し
▲玉 ○ 玉川面し 玉川 玉 玉 玉
腹 ○ 玉 玉 玉 玉 玉 玉
▲玉 ○ 玉 玉 玉 又白 ▲玉
▲玉章 ○ 紙 二白 人 紙 紙 紙 紙
二白 玉乃紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙
白 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙
▲玉 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙
又 玉乃 玉 玉 玉 玉 玉 玉
命乃 玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉
玉乃紙 ○ 玉 玉 玉 玉 玉 玉
○ 玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉
○ 玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉
▲玉乃紙 ○ 人乃命 玉 玉 玉 玉 玉
二白し 紙一 命 命 玉 玉 玉 玉
▲玉乃紙 玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉

▲玉餅　なべて〳〵はこれを用ゆ

▲玉餅　なべて二句　新式抄に玉餅も玉

ぼたもちし紙に玉に式句〳〵云抜なふ歌

▲玉餅　なべてくまぢ　ぼたもちし同

産ぶれいし餅の所一なべて

▲玉餅　玉餅し　又角附　新らしとそり

▲玉乃餅　産れ夫角し　餅に入べて

▲玉うしへ　角し　赤こ社をうゝぎ

俗くまを餅をうなべて　角と赤と赤の

○雛祝に用ひて玉餅形にてこれを人と為めや角し

○玉餅形のふるかをかをあふ産れ赤のあるかをと

夫年に産乃玉餅い接紙に産べて

産に角をくまを餅の祝代乃始まに如とり

と家去又産に角をうゝ入生のとり

▲玉頃　祝紙に地ど中居所し産の

玉頃の祝紙し

▲玉うゝげ　ひり湯べて　任掛筒

▲玉ぶん　なくく産ふりかゝられとりていい

又なべて祝紙しふられとりていい居れふ

祝ど一書に玉乃字に祝かゝて祝し

▲玉乃小龍　龍ふなべれふ産の玉

一乃玉ふるやうなめをと云龍ふ祝祖し

▲玉ゆゝ　月が紀に祝龍　とる八雲に祝い

ふなべゝ乃ゆし云祝い　ひゝふゝ

百十玉さゝ

○玉ゆゝ月又ふゝ祝ゆ

○祝乃と山田月ふ苗ふ田月　おゆゝふとを手祝ぐ

▲玉もゆゝふ　色いかゝ乃祝乃色

く祝擬ふなべゝ産ふる祝をふゝし又ふ玉

もゆゝふと云い祝紙乃祝と乃云紙

とふ玉祝又祝　祝乃祝と云

○七月乃玉玉もゆゝふ紙祝祝と云

○乙女ふゝ玉玉もゆゝふ祝祝ゆゝふ虫の産ゝ部

▲玉ひゝ　招魂し人の産とゝふ乃産祝

○玉ひゝ月玉人祝産ふゝ産びを産ふ人の書

▲玉べゝ　人乃祝ゆとふ玉産

用べしとなん世にとりてもてはやし

▲玉箒　玉箒とはいとめでたき玉箒とぞいふ

○新古今のひがくのおもかげにゆづる玉箒と

此奇は天平寶字の二年閏三月大内の西

阿倍ふ[illegible]飛しに佐保姫玉箒と名づく

[illegible]乃明れ[illegible]時天[illegible]物ゞ後[illegible]る

奇しき此奇百葉ふ入[illegible]るかもあらぬ人[illegible]

却もあらぬゆゝくとのの[illegible]

い今[illegible]し此奇とぞ[illegible]ぞ[illegible]れ玉[illegible]しゞ[illegible]

[illegible]此奇此奥所と[illegible]

[illegible]くとこ[illegible]時[illegible]

ゞふ[illegible]れしとし[illegible]

て[illegible]ど[illegible]

[illegible]

乃上人乃[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

玉箒　玉箒の流[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲竹

▲竹と名所乃竹四句

▲竹に[illegible]乃[illegible]結びく二句

▲竹と[illegible]と[illegible]

二句 義も同おとゝく

▲竹に もとの三句 [illegible]

[illegible]

名所し [illegible]

▲竹に [illegible]

▲竹乃葉に 竹乃葉山 [illegible]

▲竹乃葉 [illegible]

▲竹乃葉ゝ [illegible]

▲竹乃葉ゝ [illegible]

▲竹乃葉ゝ

▲竹川　竹川の流れ　竹の一名　竹の川　竹の流れ

▲竹屋　竹屋の川　竹の一名　竹の川　竹の流れ

▲竹　竹の子　竹の子　竹の子　竹の子

▲竹　竹の子　竹の子　竹の子　竹の子

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

▲滝川　滝川　滝川　滝川　滝川

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

▲滝　滝の水　滝の水　滝の水　滝の水

[illegible]は又旬。天部に[illegible]二旬
[illegible]は本あも二旬とも。日又云[illegible]二旬
[illegible]又旬とも人もまた二旬
[illegible]べしと思ふ[illegible]

▲[illegible]は本 [illegible]は本こゝろの面[illegible]べし

▲[illegible]ノ 初のまゝ二旬 [illegible] 面[illegible]

▲[illegible]のま 字なし 閑こゝ面むも又旬

天部に[illegible]と[illegible]旬むしたの[illegible]旬 [illegible]
又旬したの面むしたの[illegible]
[illegible]二旬[illegible]べし 但一[illegible]
て[illegible]

▲[illegible]く [illegible]は 呉の又旬[illegible]

▲[illegible]は [illegible]は 此字[illegible]も九旬[illegible]
[illegible]は[illegible]
[illegible]は[illegible]
[illegible]
[illegible]

○ 禮

▲例なるぬ　不例乃ものゝ
▲例へ
▲例へ
▲例へ

○ 霞

▲そらみつ　[illegible]

又そらみつ　[illegible]

▲[illegible]　山の後[illegible]　[illegible]と[illegible]と二句し　[illegible]

▲[illegible]　[illegible]　[illegible]

▲[illegible]　[illegible]

▲そらみつ　[illegible]

▲そらみつ　[illegible]

▲外面と　田面　わし　[illegible]面　[illegible]

乃見し　外山と　[illegible]　[illegible]

面と云と面と[illegible]

▲外面　田面と[illegible]

▲そらみ　[illegible]

▲[illegible]

▲そらみつ　[illegible]

▲そらみつ　[illegible]

▲そらみつ　

▲そぐろ　一て　そぐろ古ハ　ハくのんを
　ぞんかのあらぐどそし。そのあ坐と云のうの知し
　幸とぞかくくくくくるしむるしへそ後
　さらそふとくんとうれて面白くそあし
▲そくくあまり　面乃ゥゥ　紅の詞し
　又ハあるあまり。天流意ある。あそこ変
　あるあぐ氏面のかて　紙い雷意　鶏雷の
　惟地と二句　又時面　みす面あ氏面乃
　れまい又句　面と　そあるれ面しあまと
　そこ乃くし　面ゥゥあぐくそて又そへ
▲ぐ　こと云　滑りのか二句きし　ゾ月ものは方
　美奇　ゴ　こそあ後　こそ
▲そあ　あ面こ　何ま　と一てくそあこて
　ああこの月れ後し　そあこ　きの字
　二句し　方も武　こ巻
▲そあれ松　あきし　猴訓松し　猴武巻
　猴こ　訓不意　そ　ま乃後　猴意
　ホ訓　れと又ホれ　ゾ月ま　訓　松

と面あれそ又そあれ本古よあり
○あぐ流のそ乃流の縁訓松あれとあのて武意あも
○三句きぐ山ハホ乃る生訓松光秋風ホあれそあん
○生訓ホ乃をあれくてひを芭蕉ホかあてを逆こそ訓
▲雲　大意　しし　訓邪意　意　鶴　こう氏雷
　そそ月　そそこ云　そそ　地あせ　そう　解
　あと社　肉意　こ面　意　そ　そぐ　紙の
▲意　こ　楽天　面し　意　楽天　意　こ　面も
▲意　こ　天流　乃天　久雲　雲井　仙　も
　二句　意し
▲意　こ　乃乃意と云　二句こ　楽逆と云
▲意　こ　雲井乃紬　雲井乃意　雲の　人
　あぐの　禁　裏乃　あれ　い意　こ　ま　も　和紙
▲流の字　ぐ　しし　楽　こ　紙　用ら　た　ぬ　る　月の　鶴し
▲意　さ　ら　げ　あ　紙　そ　そ　や　う　か　い　い　さ　も　あ　紙　と　云　ん
　こ　し　世　流　こ　そ　そ　あ　ぬ　あ　て　の　ぐ　い　ぐ　ど
○意井面　ま　ぐ　ら　ん　ホ　ん　三　の　意　そ　ら　げ　あ　く　流　の　月　る
▲意　鶴　意　ホ　紙　ズ　あ　ら　の　詞　へ　で

▲雲もそぐろ　明神初ごれい参し

▲雲乃そぐれ　雲乃そぐれし

▲雲乃俗謡　月日乃うろ名ぶし

▲雲こぐれ　月日乃うろ名ぶし

▲雲ぐれ　雲こぐれとゆり酔も

雲こぐれをあこうるし

▲雲ぐれ　雲こぐれ

○拙こそ雲ぐれ法ぐれ　恐れ雲ぐれ法ぐれ

▲雲や秋風　雲と秋風

▲雲と海　雲秋し

○雲と海雲乃波五月の赤黒と林の清水の名　人光

▲そろく雲　雲乃波　月の赤

雲の林

▲そろく雲　雲と海雲乃波五月の赤黒と林の清水の名　人光

○美作乃ち入乃ち乃の日の書に　と云ふ
○こゝ次ちゐ乃ち所ちゐ　宗本
▲園　只一居所に一所とこゝし　まゞれ花園
あゞくし。美作に園生と云く居所ふ
ほゞ花こゝ植物に二句語とこゝ
▲園生に　草あゞ所生ちの面語　濃者生
草生あゞくい所語くし
▲柚　只一居所に一所とこゝし　茗ゞ柚
ゆちゞくちり　美作に　柚ちゞく居ふ茗ゞ
柚乃内に文ちゞくしちゞ　先　ほと居ふと
ことちゞくし
▲柚に　紙付句語し　ふ付べうゞ
▲柚木　山野乃月し　▲柚木　柚山か
ゞ西是一命こゝ云月くし脇ふ　ここゝ行れも　ちゞくし
▲柚人　柚士　山野に　ほゞ人語し　歌　官の
宮こふ語。美作に　そ海ちくい大農のお
花ち一意ちそしと　ちく
▲添の宮　只句ちくし　場乃ま　二句語べ
し。美作に添て前り　歌こハ扶くしと　ちく

▲底の宮　柚ちゞくこゝし
▲そこゆゆ記　只底ちゞ句ちし　仍一　云の
宮味こちゞくちり
○底ゆゆ記　鎮ちゞ　山川の流き水ふ社あゞ　社ハ云
▲そこちゞ　それちそ　云河　ちゞくちこちゞ
そこちゞ　こゝにあゞくちゞくい　ちゞくべうゞ　ちこ
ちゞゆゆこ　ちゞゆゆこ　ちゞゆゆこ　ちゞゆゆこ
美作に　その宮二句ちく
▲神の宮　月宮ふ句ちし　○神と云句
仕様ちゞくし　ゆゆ人乃ちゞくし　ゆ
ちこちゞ　ちり　ふちゞ　ちゞ　ちし。潤せく神
あゞくい戦こ　ちゞ句ちし句　神こ語べし
▲神に　ふ語　衣ふ　神こ語　兵衣い
神こ付句も語
▲神乃者　高くし　籠　者ゆゆ　云ふ
○美作に　神の者　衣の者　恋ふ　ほゞ　籠
も恋こ　ほゞ　神乃うち者い恋し　ちく

▲神乃森　神社森　花の白雪なし　大白し　者の木に多く接す
　岡ノ上ノ森　但し修理し方
　立てる白かしが岡に　ふる雪　雪の白し
　岡乃仏ノ住ノ立てしが高し　岡に二首し
▲神乃水　神社ノ水　神の河　水の源
　皆源に二首　清べし
▲神乃氷乃ごとくなるぐさむらし　春し
▲神乃雪　昆も源し　あ春とあらば
　春乃雪　文白し
▲神ぬさ　源に二首し　作て　春の白ゆで
　只　春に　ぬさ　神に　ふる　ぬれやうは
▲神乃やしろ　春　春の里　春ならば
▲神垣　居ずし　春　神に　文白　垣し
▲神ぬれて　神ぬれて　春ハ　春ハ　今
▲神清く　一本に　神鄙しく　神と鄙
　往来の源　春し　又　神続し　とあり
　昆に神とうすらしとあり

○慶川神鄙ヤ源　春　ヤ　ふるめて　我ふるん
○七夕乃神續　春乃嶋乃川　花　河に　鳴　春し
▲薄造　春乃山　源　絲　山乃　春に　文白し
　秋　も　ぬれ　と　山乃　春に　文白し
○小に　春　小　白　く　春　白　西　紅　ふる　ふるめ　ふる　の　山
▲神さ　鏡　小　杉　塩し
▲初　に　春　し　初　に
▲源　の　春　杉　ふる　て　二　る　べ
▲ふる　ふる　ぶ　人　倫し　尺　義し　山　伏　の　春　名
▲ふる　ふる　田　一　限　と　一　代　ふ　一　町　と　十　代　ふ　云
　神中　杉乃　流し　又　八　雲乃　流　も　る
○神乃田　代　代　ぶ　ぶ　わ　と　い　ぶ　ぬ　も　慶　名　字　苗　云　ん
▲後　渡　前　部　春し　武　関つし　孫　の　春　二　白
▲源り　杉　と　く　三　白　春　関　霧　い　雲　杉　白
　ふる　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
○限乃うへ乃　明　杉　く　山
○撰　雲　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲源り　杉　に　松　竹　春　春　乃　鏡　雲　井　の

庭雲のこと八月二日なし　胸はるかり
[illegible]
[illegible]

○清

▲追儺乃夜　十二月晦日なし　[illegible]
▲菓地　歳末に二日なし　[illegible]
　地菓乃菓に打なし　同家なし
▲[illegible]　續松なし　松明　同じ
▲終日と云ふ　[illegible]
　[illegible]
▲[illegible]
▲燕　[illegible]　菓も同じ　菓を去い
　松なし　[illegible]
▲翌　[illegible]　[illegible]山二日なし　孫位
　[illegible]　[illegible]　[illegible]
▲[illegible]
▲[illegible]　松乃[illegible]なし　[illegible]

▲[illegible]市　大和國乃名所
▲[illegible]　[illegible]なし　[illegible]乃[illegible]
▲[illegible]乃[illegible]　[illegible]列　[illegible]
　[illegible]
　[illegible]
　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]
▲[illegible]　[illegible]

天皇に物と赤海士ふ若ふ赤と
物海士も蘿 物籠い二句しいし
▲物糸 十句の四巻とももろし
物の糸とふ蘿りこつもりころし
▲物反 蘿れの御しあ巻神月の
却し物糸伝と浪ふ付くしろし
▲落一 巻落一 むろく 田落い
▲落乃巣 離し不嘉をへし
▲落氏色衣 落もの衣をもろし
▲落乃林 接物くふ浪 天かと山落ふも
接物ふも接ぶ山れふ世れるれんぐしよ
▲作るぐと衣 接し 接いぐちの石し
巻深乃服し八雲 雲と四張世乃接重
も山衣とうろうの巻ふ蘿も巻ふろし
蘿衣乃ふのろしし
▲法るく つまて ちとふ多そ二てろへ
▲法るれろ ゆ みろ
。蘿ふ前て金芝れて来のまもく巻巻ん

毛ハ家女前て来ふるもそつれろしあり
蘿乃ゆて行用の来ふまも与れどもふ与ふ巻ふ
毛ハ男衆ふ角ふて衣ハま一来後ふま出
ろもつれろくもあり
。ふもとつれろふ衣さ と衣白ふ
。物ふれろもて行れ角の巻ふれ 京藏
▲撮 丹巻ハ結へし 多多二巻結ふ
ゆ。天ゆ。撮て 衣物しし 衣物もの 西接し
▲月 て 物人編 天月 西月あし
月ふてく月ふ月ふも月ふまぐふし神月
ふ月 月ぐに結 西し 孫坂
▲月衣 物し 百衣 ふ結ふ 場ふ ハハ
くふの家物し 八月すふ月 完秀衣ん 年中物衣
▲月とけ 解官し 竹長 軸 女物く
衣ゆふ西ふろくふし 成系法ふ浪衣ゆふ
。天鏡ハ吹井浦ふ与ふの物ふ 雲乃氏 物ぐ乃
。氏ふ与ふ巻蘿 巻ふ寸ふ物ふん 云白
とけ ふくふもふの 物くか 京藏

▲結ぶ　一　ゆ　ゆ　ゆ

▲包丹　もし　あるの包丹ゆくく
其のつり。其年出生の乃の丹城
鶴ごく蓋と封ごくくよ波せずして
其こ月日を水察ものと国霊ふきれが
紙鉢ふ学しおし乃あるのまいあべられ
大丹の包封ものハ面ハ乃ごあくます　除夫
延命ごのまごかくくふきの乃ものくくべ
▲鍬乃神　天蔵し　色霊霊大京只
蓋乃長乃新乃ハ　素門乃ごの乃ハ
ものごり三乃後月の　三の後の三長しなき
。月面の鍬乃神もきる面と和察ふあるる雅ものをん
▲清くあるうふ　蓮と吹くくつらぬるをうし
▲清くりさ在こふ　養乃居ふ養乃
。秋原の後ひ乃比景ごりさ在ふ　古今雅消新
▲清くご　こ　もし　あし　新大蔵大命に
▲清ごく　新蓋く二弾ふべ
つ乃もつひも二面清し
▲つごりさ者こ　けりそ丹けり二面清

▲清く蓋り　下乃面の清く蓋り清乃時代
こ二ふ乃高代ハ二月ふ乃大ふ乃ふ
ゆくこ乃ふし面乃中ふ乃こつハ二面
ふくし　天年こ　清くありハ下の面清
一上乃面のつく蓋り面清ふくくく
下乃面のつく蓋りも清ふくくく
▲帯の宝　二弾ふべ　天年こ　帯の
宝新こ一つくし帯こ　帯世　文面ふ
▲帯乃焼　天蔵し　新三乃命ふ　法
乃新乃面乃ハ乃ふ面ふ　法の新ハ
▲縄　つし　縄面と清べ　縄ふく細
新蓋くふへ
▲縄良　ふ乃宝清ふ　縄ふ
▲縄　て　縄ふて　縄ふて
▲縄ふ　縄ふて　縄ふて
▲氷柱　ふ乃ふ用ふし　新乃氷角面
氷ハ乃面こ姫も　氷乃新新
▲清ふ　ふ　一ふ一ふ　命ふ　風乃

▲清ら瀬　田づら海つら川つら三所
　ゑてし　打こし田面に川つら二面に川つら
▲瀬杖　かうつゑてし
○歌　こころ　ゑて　まくかの花つつ杖のもと　ゑ
▲清らぬき　つらぬき　列　連　東　貴ホ　見ホ　別　ゑ
　ゑく二ゑてこし　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
▲清らとまぐさ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
▲清らん　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
　つゑんとつゑてこし　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
▲津　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
　ゑ

野乃素かと疑べらば。野乃つま
藤乃素。夜乃素の野まと出からホ一
ちつ素何ぞくも云ちの素ハちつし云
素の衣

一素の衣　別乃ちゆ乃風し

一素屋　素ヒ白乃風し

一瓜末　末こ二旬　末こ六旬　末こ八旬　桃末旬

天ホこ瓜末こ蕨　瓜旬

八二旬九ちつ　栄人六旬　栄人六旬色

一瓜末こ瓜琴　ちくし。天ホ　但し

百歌こ云しつまとえ　ちくこ云しとう心ちし

一苦　こて　苦色こ蕨　六旬ちし。天ホこ

苦ちてい　苦赤しちし　赤の字　六旬ちし

一黄楊乃小櫛　清げ乃小櫛し

。武蔵人乃ホ　ちの浜ちつ　ちかつげ乃小櫛

一清ふち井　つふれちる井し

一月　表裏こ一つし　瓜一名結乳

表裏

ホ乃ちヒ長ちすち又ちち表表ちの月

一つ。ちの八秋こ一又何ヒし先三季の

月ハ三日月ハ三季の月。
ちて。ちの八秋こ一季乃月こ春月と云
ちつ。三日月ちこ三ちちへし。表を月の
ちの月春ちちた三ちちちへ。月ハ
秋ホこハちちへ。ホ月ちの月ちこ
ちし。秋乃春。月ちちく秋ちく六旬三旬
乃月秋乃季秋へちへ。秋乃季の月ち
春表ちちちも春ちちちちず又ち表旬
ホ月次乃月ちし。月ハ七旬月ちちと
ちちちし。秋ハちの月ちこ。月ちホ秋ちの世ヒ
西八旬乃月こ月ちホ秋ちし
。天ホこ月次乃月こちの月秋ちこホ春
と結色乃ちの春月二旬瓜旬　表旬
月次月ちちく二旬瓜旬　表旬
可秋し月ちちのちん乃ちし月ちて
一月　秋乃八旬ちホ月ちちし
一月こ秋乃ちちこホ秋ちちホ
一月こ日三旬し　日次乃日ハ二旬し

一月に[illegible]けめわと結こ[illegible]
一月に夜更[illegible]
[illegible]月非[illegible]月[illegible]
一月に[illegible]
[illegible]
一月に[illegible]二の[illegible]
[illegible]
一月に出結ひくく又月に[illegible]
[illegible]
一月結[illegible]
[illegible]
一月[illegible]
[illegible]
一月[illegible]
[illegible]
一月次の月と[illegible]
[illegible]

一月[illegible]
一月[illegible]
[illegible]
一月[illegible]
[illegible]
一月の[illegible]
一月の[illegible]
[illegible]
一月[illegible]
一月[illegible]
[illegible]
一月[illegible]
[illegible]
一月[illegible]
[illegible]
一月[illegible]
[illegible]
一月[illegible]
[illegible]

[illegible]

▲月乃稲　月乃稲の花　月乃種の花　月乃種の花も稲し　稲乃花も稲し　稲乃花も稲し　稲乃

いろいろとめづらしく作りて歳旦などに用ゐる
小紙べしきし

▲月代　新乃字付旦新紙と称
▲月代こ　綱代　面代　初し

▲月と日こ　天乃川　七夕乃伝説ハ二旦
始し名所乃天乃川ハ河内国ニ有り

▲月　新年こ始ぶ月　入年に結ぶ月　日こ結ぶ月
三旦月乃歌　夕月新年　昔新年こ始と
。月と梅乃ゆきあるべ　山旦新年こ始ず
。月と桜乃ゆきあるべ　山旦新年こ始ず

▲月うちつゝ　年始楽し
▲月の雪　雲雪乃月ハ陸く墨うと云
▲月読乃神　名所神し　名所こ祝ど森を
名所し　月新見　月読　月うち記　月ハ月ハ大名
月神乃面白弦　伊勢乃外宮乃神
又高宮山乃丹生大明神　毛月読乃
ゆくゆく天照大神乃出世とも

。あらたまの神と表ゆやとうしきうし
。神ふ新乃乃月ハ　紙乃月ハ

▲月景　霞景　月の字こ文旦し　新も初ちめく
書し　月の字こ文旦し　鶴乃字と
月景部ぐ　ちくい天象し　出い天象こ祝ぐ
月景部ぐ　ちくい天象し　出い天象こ祝ぐ
天部こ月こ新部ぐ　ちくい天象し　出い天象こ祝ぐ

▲霞山　山部こ祝ぐ　山部こ二旦　太こ霞乃象山こ須ス
▲霞こ　木乃系結ぶ　ちく新し　霞景部こ
▲霞乃ちる　霞乃殺部ぐ　ちく新し
旦旦ちく回面こ　ちく新し　霞景部こ
あれば形語し　霞乃殺部ぐ　ちく新し
▲霞乃結ぶ　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく
▲霞乃ちる　ちく　霞乃結ぶ　ちく

▲蚤けさ　蚤けさ　蚤けさ　蚤けさ　蚤けさ　蚤けさ　蚤けさ　蚤けさ

▲蚤　蚤　蚤　蚤　蚤　蚤　蚤　蚤

▲蚤と蛭　今のおのつから

▲蝨　蝨　蝨　蝨　蝨　蝨　蝨　蝨

名所樹ぶかき人の園も又句作すべし

▲蘇こ 卯 二句し 樹梅ぶかき所杉山

麓 秋ぶかき 蘇し 夏草 これも二句作すべし

▲蘇こ 紀 月光 武蔵野 月光 二句

▲蘇光 面八句の内ふもとの

○夏草こ 蘇光 十句の内ゆかせぬ

遊若草 ゆかるべしとこそ

▲蘇光こ 菱 二句 祝も二句 ここの

菱も二句し 蘇こ菱の花 光こ菱 光こ菱

▲又蘇ハ やねし 秋 ふし 恋

別こ 付ど 歩 紙 もいづ

▲蘇光 ゆかるし

▲蘇てのあさけ 蘇てのあさし

○あさけ 夏 月 夏こ 蘇の 春 秋 冬

▲蘇よりの 秋 乃 作し

▲蘇ふる 秋 もとさい 蘇ふる 秋し

▲蘇くれ 蘇 乳 蘇し 乳の 夏 二句 作

遊べ 作り 強 抗

▲蘇ひれて 蘇ひれふる 蘇し 蘇くれ

▲眠 紀 二句 外 紀 二句

▲国 屋 乃 蘇し 秋ふし 屋の 夏 又

蘇 ねる 秋 国 蘇し 夏 国 蘇も 国し

▲蘇 物語こ 樹乃 ふし 扇乃 夏 蘇ふる

物 面 不 綱 戸 不 射 扇

▲秋乃 七夕 扇乃 夏し 夏 恋

二句 秋ふし 秋ふる 秋ふる

秋ふり 夏 秋し 秋ふし 夏ふし

○七夕 七夕 夏 蘇 蘇 蘇

▲蘇くれ 蘇くれ 蘇 蘇 蘇

蘇 会 蘇ふる

○月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

▲根 こし 初し 初根 根 根

又ハ 木乃 木の 根 根 根

ふる根 竹 の根 富士 根 根 根

一 二 三 根 ○夏 草こ 名 不 一 二 三 根 根

木の根 岩 岩根 植 根 引 食 日 し

▲岩根垣根あぢに張下とれと垣
張うて　絲うて　絲うて　垣
○絲　年絲うて　垣　紙　麻　あ　本　垣　紙　ふ　ふ
▲苧　こ　とと　苧　苧　こ　ふ　二句し
ねとくい　又句し

▲絲くり　絲　こし　麻　麻　麻
ゆし　織　射　絲　とる　回　ゆし　句　こし
麻　こ　打　こ　麻　こ　絲　い　絲　絲　こ　い　絲
苧　紙　こ　苧　こ　苧　紙　紙　こ　紙　こ　紙
○苧　麻　紙　紙　こ　紙　紙　こ　紙　紙　紙　紙
し　垣　絲　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

▲子日　こ　松　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣
垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣
○子日　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣
引　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣
くて　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣　垣

▲絲ぐさし　絲　絲　絲　絲　絲　絲　絲　絲　絲　絲

○絲ぐさし　絲　絲　絲　絲　絲　絲　絲　絲　絲　絲
▲絲ひ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

○苔

▲苔代　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔
田　二句　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ
▲苔代　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔
苔代　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔
居所　二句し
▲苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔
苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔　苔
▲縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄
▲縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄
▲縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄　縄
▲雛波津　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛
▲雛波津　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛
乃津　二句　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛
▲雛波　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛
時　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛　雛

▲難波津乃浦と所のなをよりてもなづけたるなり
なるべし　何事ハ　何事ハ　何事ハ　何事ハ　何事ハ
名所と二句なり　何事ハ　何事ハ　何事ハ　何事ハ
▲難波乃浦　何事ハ　何事ハ　何事ハ　何事ハ　難波乃うらし
なづけたる　難波乃やまとの　山の
なをもとめ　難波乃　難波乃
▲難波乃　難波乃　難波乃　難波乃　難波乃
▲難波乃　難波乃　難波乃　難波乃　難波乃
▲難波乃　難波乃　難波乃

▲あるこ　あるこん　あるこも　付句語し
▲あるこん　あり　こし　あるこ　あるこん　あるこも　面し　あるこん　面し　あるこん
　あるこんと　あるこんの　打句語　あるこん　あり　こも　あり　あるこ　あり　こし
▲あれや　あり　二　あるこ　あり　二し
　あるこ　あるこ　あるこ　あるこ　あるこ　一切ふ語
▲あれ　あり　さ　あるこ　こ　こ　こ　こ　こ
　あれと　あるこ　打句語べし
▲あるこ　こ　あるこん　打句語し
▲ふるこり　と　ふるのやし　やうこ　ふるこ　こ　こ　こ
　こし　あり　こ　こ　こ　こ　こ

▲鹿と宮二句しゐ紅葉こ二句と

▲鹿夜　嘉元夜を云　鹿に云ふ　こゝろ

▲鳴子　てし　田こ張べい様　二句　別　鳴

▲鳴子縄　竿乃ふ　鳴

▲鳴神　栗畠ふ　鳴

○目縄しゝ栗ハ　こゝろ　穴　鳴

▲鳴ル　と云詞　猪乃鳴こ　琴を引　すゝ　鳴

へ一日く鳴こ　琴を引　すゝ　鳴

文句こゝろへ一　文鳴と云詞　末こ　夜と

▲猪乃字　文句　こゝ　大　猪

▲笠栗ハ　大丸ふ　笠栗ふ　猪

付ふも　鹿　栗ふ　笠栗　世文の

中こいろ　こゝ　こ　笠栗　さ猪

▲中のま　文句し　▲中こ四二句と

世界　二句　栗天　二句し

▲栗天　し　虎こ　面し　中二句　栗天句

栗ハ　ナトハ　虎。栗ハ　天人　栗　天句

▲中神　奇ふ　中神　奇ふ　中神　奇りて

名見ゝ　名中ふ　中神　天一神　こ　中神

栗ふ　天日　こ　日　こ　維　こ　六日　こ　四十四日

中　こ　四　こ　維　こ　六日　こ　四十四日

日　こ　天一　こ　こ　こ

▲中瀬　瀬乃中を流れ下し　（中瀬の橋あり）
中瀬とくるの縁を流れ下り
瀬乃中金を瀬乃中を流れ下る
○過渡と云ふ所を中　（此句瀬の中一地名）

▲中瀬　瀬し　縁し　人橋し　瀬の中にかゝる橋し
二句し　橋し　瀬乃中にかゝる橋し

▲中川　瀬乃中を橋川し　（中略）

○此所の流れ　（光俊）
橋の字清く　橋　橋乃中橋

▲中橋　瀬と瀬乃中を流れ下る　月を瀬乃
どの五へ　どの五へ　瀬乃中を流れ下る
瀬乃中を流れ下る　月を瀬乃
瀬乃中を流れ下る　月を瀬乃

▲瀬　二し
瀬乃中を流れ下る　月を瀬乃
瀬乃中を流れ下る　月を瀬乃
瀬乃中を流れ下る　月を瀬乃

▲あぐんての世　あぐんてのよし　ぐんてのこと　○四十四

○世をあぐんて流るる池　池にぐんてぐんてぐんてかくふ

○流れの末　流れの末　流れの末　流れの末　流れの末　流れの末

いぐさしゑ　ゑまこ　ゑてい　ゑるんこ　ゑ
○ゑまこ　ゑりまこ　ゑりまこ　ゑりまこ　ゑりまこ　ゑりまこ　ゑりまこ
ゑまこ　ゑまこ　ゑまこ　ゑまこ　ゑまこ　ゑまこ　ゑまこ
○ゑまこ　ゑまこ　ゑまこ　ゑまこ　ゑまこ　ゑまこ　ゑまこ

▲ゑあひと　ゑこ　ゑ　ゑ　ゑ

▲名乃木　名木乃葉の花し　梅花ごと
▲橘　雑し　葉の形し
▲柏
▲柳葉　雑し　葉の形し
▲柏
▲柳葉
▲名乃花
▲名乃葉
▲名乃葉
▲名乃木
▲橘
▲柏
▲柳葉
▲名乃花
▲名乃葉
▲名乃葉
▲名乃木
▲橘
▲柏
▲柳葉
▲名乃花
▲名乃葉
▲名乃葉
▲名乃木
▲橘
▲柏
▲柳葉
▲名乃花
▲名乃葉
▲名乃葉

二句 ものも二句とも ほのぼの 旅の宿
ものこ一只一吹とろく面白きしとそ
▲旅本想 旅さろ ふれ中 ふ何 ふろ
○ものの乃ほくの猫山 ものこ句こ
ものらふもんしと旅乃二琴ふく ふ花
▲色紙乃板 ぞい和 板たち 恵祢と
ものものらんしものこ乃後たちる入方
海月川色に出くく 桃祢ふるし ふらこ
○さの宮とものの祢もあてとものの紙の猫ふれい
▲ものたるる乃笑 奥列ふる色ふし
ものよこしこんよこ山 山彩し
○ふられものこと笑の恨ふる何ふつくこんぞうん
○ものあれとものこ恨ふる ものこ句こ
○ものそこそ 笑ものこ人もう ふ孤
○人乃んれふる世中 ものこ句こ
○色紙も果はふ ものこ笑猫ふく 同
○うくれい猫り 歌 ものこ句
○ふりものふものふ ふ浪り 同

▲和 れくものとれ笑ふ色ふ ふ猫
ものこ ものふる ものふる
○ものものこ ものこ
▲ものこ
石乃祢ものこ ものこ
何とものこ ものこ
ものこ ものこ
しふふ
○笑ものれれ ものこ
▲清 ものこ ふ色ふ ふ
▲清 ものこ ふ二句し 神色ふ ふ
○ものこ ものこ
○ものこ ものこ
▲清 ものこ
▲清 ものこ
▲清の森 ものこ 清乃森 何とものこ

清乃院　唯奏紀ものの　波敷しこと
山吹なり

▲妄　の字　一句に二句
の美かに　妄張と云こと
しき張と云ふ　張乃字
例くろ〻く　紅色　妄ふ〻く
▲妄　に妄の字　文句通分　あぢたあた
あ〻あく　紅き　光赤あた　ひあた
他あく　ひと海あと　形方りあこ　紅
又美かと　海とあこあと　ども
文句し　あわ妄　二句に二句ともし妄張
▲妄　に妄の字　二句通分　ひあしき
とくあた　あた　意あた　ふこと
あれ　こひべるあと　ひも波物
ひ形し。美かに　あるるもあと　ぬ早る
あれのあど　二句と　と
▲妄　に妄の字　付句通句
▲妄　と妄の字　五張分　雅楽　紅
ふり　あた　張　柔　拙　ふりあた　ひ形し

▲妄　乃字　一句に二句
こと形て　あたとりがある　果りあ
付句ふふ〻と云句に　昌泡ひふ〻し
▲妄　と云句に　波　形と付ふ　味
あ〻と　ふり　紅ひふ〻ちの　ふこと　昌泡
▲ふ　ひ　ふ　ふ　あり　ふこと　ふり
あるんし　あ　付ふ　妄　と　ふし
信ふ　ふ　ふ　ふ　と　あ　と　ふ　ふ
と云に　付　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
あるんふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
あ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ひと　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
▲波　字　ふし　あ　花　用し
▲波と　羽張　尾　波　ふあど　波の
字し　あ　色に　ど　波に　文句拙
▲波と　紅　紅　ひふも　句　拙　紅
▲波乃　字　あ　色し　拙　色に　ど　但し
紅乃波小　羽　ふ　ふ　ふ　ふ　句　ど　ひ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

西行記し書し 桂園し 天かに波乃白
くさとそ〳〵さき只花ゆくさ乃 船を組
みゝく雜し 西行記し 也ハ花の盛り源みくさ乃
源乃花西行記し

▲源乃雪 俗組し 多くし 支方に 源し 多くし 支方源
入もとゝ乃ゆゑ源ゆゑ乃 俗りゝ
ゆゑし 一書に。 物、 嫌、 横、 横、 船に
一横一書 時 所 開 ゆ 路 兩方 可
俗 食 物 源 物、 嫌し 可 混 食し
物、 嫌し 平 源 食 と乃 と
か 雪乃 波 ゆ 俗 ゆ 俗 と 物 と 俗 と
寿 繪 ゆ ず ゆ く も ゆ ゆ く し

▲源花
寿 繪 ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ 訂
ゆ と れ 絲 花 ゆ ゆ べ し。 天かに 樹 花 い
寿 ゆ く ゆ ゆ ゆ ゆ れ ず と く

▲源乃霧 俗 繪 し 組 し

▲源繪 俗 繪 ゆ

▲淵 七句 き し 八句 源 二句 し 名 の
鳴 ハ ゆ 繪 ゆ し ゆ れ も 鳴 く ゆ ゆ ゆ 二句 繪
。 と 人 と 乃 乃 源 乃 霧 源 く 八句 繪
ゆ く し 表 繪 し 只 か に 淵。 無 く
ゆ く も 七 ゆ く し く く

▲源と 神乃月 神ゆ や ゆ 月 算 句 紙
た に 繪 ゆ き 中 句 神 ゆ ゆ も 繪 き で
き し。 天 か に 淵 に 神 井 乃 も 源 乃 ゆ く
い ゆ 若 神 の 月 も 淵 ゆ 毛 も 神 ゆ 淵 ゆ
月 ハ ゆ 繪 神 乃 ゆ ゆ く 神 の 水 首 淵 ゆ く
▲源乃財 名 き し 参 と 移 反 繪 し 新 歌し
天 か に 二句 し 名 た 財 反 き く 源 の 四 反 ゆ
源 乃 財 反 ゆ 源 乃 反 ゆ 乃 反 り 二 の 四 出 ゆ ら こ て し
▲源乃反 北 繪 ゆ 反 に 反 し 叱 ハ 反 句 く 公
▲源乃霧 降 ゆ し
▲源乃震し き し 源 ゆ し
▲源川 北 ゆ 名 に 作 算 繪 し
ば ゆ き て し 詠 勢 四 ゆ と く

▲髪ぬきとる　髪ぬきとる際とうを[illegible]

○[illegible]乃[illegible]乃[illegible]

▲[illegible]　[illegible]乃[illegible]

只の[illegible]

[illegible]

▲[illegible]　[illegible]し　[illegible]中に[illegible]

[illegible]

[illegible]乃[illegible]

乃[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]　[illegible]

[illegible]引[illegible]

[illegible]乃[illegible]引[illegible]

[illegible]乃[illegible]

[illegible]

唐衣　[illegible]三終

林氏醫院